平成２９年度

地域魅力化応援隊員業務報告書

＜総括表＞

地域魅力化応援隊員が

魅力ある地域づくりを応援します

益田市政策企画局人口拡大課

もくじ

(1) 平成 29 年度地域魅力化応援隊員名簿	P. 2
(2) 益田地区	P. 3～P. 5
(3) 吉田地区	P. 6～P. 8
(4) 高津地区	P. 9～P. 11
(5) 安田地区	P. 12～P. 15
(6) 鎌手地区	P. 16～P. 19
(7) 種地区	P. 20～P. 22
(8) 北仙道地区	P. 23～P. 26
(9) 豊川地区	P. 27～P. 30
(10) 真砂地区	P. 31～P. 34
(11) 西益田地区	P. 35～P. 36
(12) 二条地区	P. 37～P. 40
(13) 美濃地区	P. 41～P. 44
(14) 小野地区	P. 45～P. 48
(15) 中西地区	P. 49～P. 51
(16) 東仙道地区	P. 52～P. 55
(17) 都茂地区	P. 56～P. 57
(18) 二川地区	P. 58～P. 61
(19) 匹見上地区	P. 62～P. 65
(20) 匹見下地区	P. 66～P. 69
(21) 道川地区	P. 70～P. 73
(22) 地域魅力化応援隊員事業実施要綱	P. 74～P. 75

【地域魅力化応援隊員とは】
総務省が制度化している「集落支援員制度（特別交付税措置）」の益田市版で、地域の課題整理や住民同士の話し合いの促進等により、住民自治機能の強化を支援します。地域魅力化応援隊員は、配置の希望があった地区振興センターに配置しています。

平成 29 年度地域魅力化応援隊員名簿

No.	配置先	活動地区	氏名	採用年月
1	益田地区振興センター	益田地区	原　　浩	平成 27 年 4 月
2	吉田地区振興センター	吉田地区	徳屋　映三	平成 26 年 4 月
3	高津地区振興センター	高津地区	梅津　梨紗	平成 29 年 4 月
4	安田地区振興センター	安田地区	尼子　達夫	平成 27 年 5 月
5	鎌手地区振興センター	鎌手地区	和佐田　昭弘	平成 27 年 11 月
6	種地区振興センター	種地区	城市　仁	平成 29 年 12 月
7	北仙道地区振興センター	北仙道地区	大久保　佳美	平成 29 年 4 月
8	豊川地区振興センター	豊川地区	岡﨑　友臣	平成 26 年 4 月
9	真砂地区振興センター	真砂地区	岸本　真樹	平成 27 年 8 月
10	西益田地区振興センター	西益田地区	栗山　三男	平成 26 年 12 月
11	二条地区振興センター	二条地区	堀江　宗仁	平成 29 年 4 月
12	美濃地区振興センター	美濃地区	真庭　太樹	平成 26 年 4 月
13	小野地区振興センター	小野地区	山本　　勉	平成 26 年 7 月
14	中西地区振興センター	中西地区	吉賀　和之	平成 27 年 5 月
15	東仙道地区振興センター	東仙道地区	青戸　美奈子	平成 28 年 4 月
16	都茂地区振興センター	都茂地区	大谷　昭次	平成 28 年 4 月
17	二川地区振興センター	二川地区	小原　静伍	平成 26 年 4 月
18	匹見上地区振興センター	匹見上地区	大畑　　馨	平成 26 年 5 月
19	匹見下地区振興センター	匹見下地区	小島　雄二	平成 27 年 10 月
20	道川地区振興センター	道川地区	高田　純子	平成 26 年 4 月

計 20 名

益田地区

地域魅力化応援隊員　氏名　原　　浩

平成 29 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1.　配置部署

益田地区振興センター

2.　配置年月

平成２７年４月から

3.　活動の概要

①活動の内容

〇地域自治組織設立のための支援

・５月１０日　第１回準備会役員会

本年度の自治組織設立準備事業計画、予算見積書の審議

準備会新委員の選考

３部会の構成を承認

・５月２９日　第１回益田地区地域自治組織設立準備会

本年度の事業スケジュールについて

３部会の編成

・６月　８日　第１回ふれあい部会

１５日　第１回歴史部会

３０日　第１回安心安全部会

アンケート結果やワークショップの意見をもとにまちづくりプランに基づく活動計画について話し合う。

ふれあい部会

歴史部会

安心安全部会

・７月２５日　第２回役員会

各部会長から第１回の部会で話し合われたことを議事録をもとにして報告。

自治組織の組織について話し合う。

次回部会日程を決める。

・８月２３日　第２回安心安全部会

２９日　第２回歴史部会

３０日　第２回ふれあい部会

第１回の部会で話し合われたことをもとにして、最終的な各部会の活動計画をまとめる。

・９月２８日　第３回役員会
　各部会の活動計画を報告し、内容・取組の時期について話し合う。
　後期事業スケジュールの修正。
・１１月３０日　第４回役員会
　各部会の活動計画について最終的なまとめをする。
　自治組織の組織図について検討する。
　第２回の準備会の進め方を検討する。
・１２月２０日　第２回益田地区地域自治組織設立準備会
　各部の活動計画を提案する。
　３部会に分かれて活動計画を検討、報告。
　自治組織設立支援事業後期スケジュールを了承。

・１月２９日　第５回役員会
　１２月の準備会の意見を受けて、各部の活動計画のつめをする。
　自治組織の組織とその規約について検討する。
・３月２０日　第６回役員会
　本年度の振り返りと来年度に向けて事業の見通しについて話し合う。

②活動の成果及び効果

本年度の活動目標を「町づくりプランに基づく活動計画を策定するとともに、地区住民の啓発に努めながら、平成２９年度末の自治組織設立を目指す。」として活動を開始した。

活動計画の策定にあたっては、できるだけ幅広い世代から多くの意見を求め、集約していく必要から新たに９名が準備会委員として加わり、５月の第１回目の準備会において、「ふれあい部会」「安心安全部会」「歴史部会」の３部会を構成した。各部会ともそれぞれ２回ずつの会合をもち、魅力ある町づくりを進めるためにどのような活動を進めるべきか話し合った。各部会とも共通することは、薄れつつある地域のつながりをどう構築していくか、次の世代へどのように継承していくということであった。出された意見を集約し、第２回の準備会でさらに検討を重ね、役員会において最終的な活動計画へとまとめていった。

公民館館報の中で「自治組織だより」として情報提供に努めたが、地区住民への周知というところにはまだほど遠く、さらには年度途中で振興センターの廃止に関わって出てきた様々な問題点の指摘もあり、早急な自治組織設立については役員会の中でも懸念する意見が出てきた。そのため年度末の設立は見送り、出来上がった活動計画をもとに自治会ごとの説明会などで地区住民に十分に理解し

てもらうように努力するということを確認し、後期事業スケジュールの一部を変更した。

結果としては２９年度設立という当初の目標は達成できなかったが、各部会の活動計画が出来上がったことは、設立への大きなステップとなる。また、つろうて子育て協議会、商店会青年部から若い世代が、あるいは３人の地区選出の市会議員がそろって準備会に参加していただいたことも気運を盛り上げる大きな力となった。

4. 残された課題と今後の提案

今年度の設立を見送り、もう少し時間をかけてじっくりとということを役員会で確認した理由は、地区住民の自治組織設立への意識の醸成が未だ不十分だということである。今後の取り組みの一番の課題である。出来上がった各部の活動計画をもとに地区説明会をしていけば、自治組織が目指すまちづくりの姿を具体的にイメージでき、理解してもらえるものと期待している。

来年度は「自治組織だより」で引き続き啓発に努めるとともに、役員会を中心として各自治会に出向き、説明会を開いて地区住民の理解を求めるということが活動の中心となるものと思われる。また、既存の各種団体の活動内容を精査し、互いに協力してできるところを調整しながら、共通の課題をいっしょに取り組めるようにしていく必要がある。限られたマンパワーを互いに補い合いながら事業を進めていくための調整が重要となってくる。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

応援隊員としての３年の活動を今終わろうとしている。任期中の自治組織の設立という目標を達成することができなくて、一番大きな仕事をやり残してしまい、申し訳ない気持ちでいっぱいである。

１年目は何もかもわかないままに過ぎてしまったが、その中でも地区民のアンケートを実施し、集約できたことはわずかな成果として残っている。２年目はアンケート結果をもとに自治組織の大きな礎となるまちづくりプランを作成し、ワークショップを通して地区民の願いなどをまとめることができた。３年目は３部会を立ち上げ、活動計画をつくることができた。

自治組織としての形は整いつつあったが、最後の大きな壁は地区住民の周知の問題であった。人口６千人あまりのこの地区でどうやって自治組織を理解してもらうのか、立ち上がったあとの組織を誰が支えていくのか、大きな課題として残る。それが見通せぬままの自治組織設立はやはり時期尚早と言わざるを得ない。しかし地理的にもコンパクトでまとまりがあり、七尾まつりを始めとして地区民がつながる行事も多いこの地区で、「ひと・まち・歴史の鼓動を感じるまち」を地区民の総意で作り上げる日は決して遠くないと期待している。

吉田地区

地域魅力化応援隊員　氏名　　徳屋　映三

平成２９年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
   吉田地区振興センター
2. 配置年月
   平成２６年４月１日から（４年目）
3. 活動の概要
   ① 活動の内容

事業名	内容	実施日程	実施体制
地域自治組織設立支援事業	・「吉田の未来を考える会」準備会において吉田地区における“地域自治組織”についての検討・協議 ・「防災」について地域における取り組み方の検討・協議 ・「防災」についての研修会実施 ・「自主防災組織」についての研修会実施 （「吉田の未来を考える会」準備会委員・吉田地区 39 自治会の役員を対象に実施。28 自治会からの参加） 	４月 13 日＝　事前会議 ４月 25 日＝　第１回会議 ６月 12 日＝　事前会議 ６月 27 日＝　第２回会議 ８月 31 日＝　第３回会議 10 月 20 日＝　事前会議 10 月 31 日＝　第４回会議 11 月 27 日＝　事前会議 12 月 11 日＝　第５回会議 12 月 19 日＝　臨時会議 平成３０年 ２月５日＝　事前会議 ２月６日＝　第６回会議 ３月 22 日＝　第７回会議 ・８月７日 ・８月９日 ・８月 25 日 （地区内 39 自治会を３ブロックに分けて実施） ・12 月１日（下本郷連合自治会） ・12 月３日（南町自治会） ・3 月 24 日（太平町自治会）	【協働】 ・「吉田の未来を考える会」準備会 ・吉田地区内自治会 ・人口拡大課 ・センター職員 ・公民館職員 ・ＮＰＯ法人防災支援センター

	 ・防災についての研修会実施 ＨＵＧ（避難所運営ゲーム）体験 	・8 月 31 日 第 3 回「吉田の未来を考える会」準備会にて実施	

上記活動の日程・協議議題の内容等の調整および決定、協議事項の議事録作成等を行いました。

② 活動の成果及び効果

「地域自治組織設立支援事業」の活動の成果および効果

今年度の「吉田の未来を考える会」準備会も、引き続き吉田地区での地域自治組織の形態について協議・検討をし、人口拡大課との協議も進めました。

また、吉田地区全体の共通意識で取り組める「防災」にテーマを絞った話し合いや各自治会に向けた活動に取り組みました。

その一つとして、ＮＰＯ法人防災支援センターによる「自主防災組織」についての研修会の実施により「吉田の未来を考える会」準備会の委員のなかで「防災」に関する取り組みを進めることは“安心・安全なまちづくり”のための重要な取り組みであるということを再認識することが出来ました。

また、ＨＵＧ（避難所運営ゲーム）の体験により、災害時の避難所運営の大変さを知ることが出来ました。

地区内の自治会役員を対象とした、「自主防災組織」についての研修会では参加者の防災に関する意識の向上が得られ、来年度に向けた自治会内での「自主防災組織」の設立に向けた話し合いや準備を進める自治会も出来ました。

また、このような「自主防災組織」の設立に向けた取り組みには、住民同士の繋がりづくりが必要であるということも認識されつつあり、地域の課題である住民のつながりの希薄化の解決に繋がっていくものと考えます。

4. 残された課題と今後の提案

「準備会」では吉田地区なりの“地域自治組織”とは？を協議していますが、地域自治組織の設立によって現状から何が変わっていくのか？未だに、なかなかイメージ出来ずにおります。

今年度、取り組んできた「防災」に関する取り組みを引き続き進めていき、そこから出てくる課題や問題点を少しずつ解決していく事が重要だと考えます。

将来的には「自主防災組織」の吉田地区全地区での設立を理想としていますが、単独自治会での設立が困難な自治会なども当然あります。そういった自治会をどのようにサポートしていけるのか？また、学校や事業所との災害時の連携などがどの様に得られるのかを今後考えていく必要もあります。

「準備会」としては引き続き「防災」に関しての取り組みを進め、そこから出てくる課題や問題点を検証し、解決策を探りながら、自分たちの吉田地区が“住みよい町”となるためにどのような取り組みをしていけば良いのか、今後も知恵を出し合い協議していく事としています。

5. 地域魅力化応援隊員の業務を振り返って

今年度も吉田という地区や市街地における、“地域自治組織”の必要性やどのような組織として成り立つのかを「吉田の未来を考える会」準備会の方々と共に考え、悩んで業務にあたってきました。

地域魅力化応援隊員の業務は“地域自治組織”の設立のための支援員なのですが、“地域自治組織”を立ち上げるための支援と言うよりも、担当地区をどのような地区、どのようなまちにしていきたいのか？と言うことを地域の皆さんと一緒に考え、協議を進めていくという意識で業務するのが自然なのでは？と考えるようになりました。

このような意識を持って業務にあたっていたために「準備会」での「地域自治組織設立」のための協議が上手く出来ずに、他地区の進行状況などから考えると、遅々として進んでいない状況となっていることは申し訳なく思っています。

来年度はこの職を辞することとなりましたが、これまでに吉田地区の自治会や様々な活動をされている方々と顔見知りになることが出来、関わることが出来たことは私にとっては貴重な財産となりました。

今後は一益田市民として、“地域づくり”“ひとづくり”の活動に関わっていければと思います。

高津地区

地域魅力化応援隊員　氏名　梅津　梨紗

平成 29 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1.　配置部署

高津地区振興センター

2.　配置年月

平成２９年４月から

3.　活動の概要

①　活動の内容

【地域自治組織について】

・地域づくり協議会のメンバー２０名を充て職ではなく委嘱状を出し、２年任期とした

・地域課題に重点を置き、４つのテーマ部会「健康・福祉の充実したまち」「安全・安心なまち」「歴史・伝統文化の薫るまち」「子ども・若者が育つまち」に分かれ活動を充実させていく為に協議を重ねた

・５ブロックごとでの話し合いは継続することとした

・「高津の未来を考える会」として高津で活動する団体（２３団体）も交えてＭＲＴを開催。団体の活動内容・問題や課題を出してもらった

・山口県阿武町へ視察に行った

・単位自治会・ブロック会議に参加

高津の未来を考える会

川丁自治会会議

浜ブロック会議

須子ブロック会議

② 活動の成果及び効果

【地域自治組織について】

・テーマ部会ごとに来年度に向けての活動目標が決まった
・高津の未来を考える会を通して、団体同士の横の繋がりをつくる場を持てた
・山口県阿武町へ視察に行き、委員の考え方や取り組みへの視野が広がった
・協議会メンバーが１人増え（高津児童館長）２１名となり活動の輪が広がった
・単位自治会・ブロック会議に出る事で、より地域に寄り添った問題や課題を知ることができた。その内容を全体で共有し今後の活動の中に組み込めたらと思う

4. 残された課題と今後の提案

【地域自治組織について】

・まちづくりプランと活動計画案の作成
・委員により主体性をもってもらう。そしてテーマ部会ごとで自分達で自主的に話し合いができるような形にしたい
・来年度も「高津の未来を考える会」を開催する。昨年開催したＭＲＴに参加してくださった団体に対して、協議会としての考えを返し、その上で協力して取り組めないかを協議したい
・委員、地域団体の横の繋がり強化

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

一年目で正直何をどう進めていけば良いか悩みましたが、今年度は、地域づくり協議会の委員に主体性をもたせる為の年だった様に感じます。まだまだ一人一人の意識付けは必要ですが、私も含め会議を重ねるごとに何か手ごたえを感じている様子が伺え、協議会として１歩前へ進めた様に思う。また、単位自治会・ブロック会議にも参加し様子を見たが、進み具合は様々ではあるが、どの会議も何度も何度も協議し出来る事から取り組み地域を良くしていこうとしているのが良く分かった。

この一年での一番の学びは「町づくりは、人づくり」だと活動を通して改めて知ることが出来ました。人と人とが繋がることで輪が広がり、何かが生まれる。

来年度も人と人との繋がりを大事にしていきたいと思います。

安田地区

地域魅力化応援隊員　氏名　尼子　達夫

平成 29 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
   安田地区振興センター
2. 配置年月
   平成 27 年 5 月から
3. 活動の概要

①活動の内容

・前年度 3 月 18 日に地域自治組織を立ち上げ、総会開催に向けて代議員を募集したところ定員 30 名を超える 35 名の応募がありました。

・平成 29 年 4 月 24 日（日）に地域自治組織安田地域づくり協議会総会を開催し、平成 29 年 5 月 18 日（木）に地域自治組織認定通知書の交付を受けました。

・今年度の取組みは、前年度からの継続で「やすだ村ええもん市事業」「地域お助け隊事業」「史跡・遺跡整備事業」「環境整備事業」を行いました。

『やすだ村ええもん市事業』

安田地域で生産された農産物、手作り品などの販売を通して農産物の生産、加工、独自商品の開発などを行い地域住民の生き甲斐づくりと地域活性化を図ります。

【開催日】

第一回　H29.7.9（日）　AM9:00~11:00　出店者：31 名　来場者：約 300 名
第二回　H29.10.15（日）AM9:00~11:00　出店者：25 名　来場者：約 200 名
第三回　H29.12.17（日）AM9:00~11:00　出店者：29 名　来場者：約 300 名

『地域お助け隊事業』

地域の高齢化が進み、作業が困難な住民に代わって有償で草刈・伐採作業を代行る「地域お助け隊」を結成して 3 年目、住民が安心して暮らせる環境作りと作業従事者の生き甲斐づくりに貢献しています。現在登録作業員は、男性 15 名、女性 5 名。H29.4 月から H30 年 2 月までの受注件数は 69 件、内草刈伐採作業が 42 件、庭木剪定 12 件、墓地清掃 3 件、その他 12 件です。

『史跡・遺跡整備事業』

・旧山陰道の整備を行い、歴史の伝承事業に取組み保存してきた先駆者たちの業績を周知することで、地域の方に安田人としての誇りを持たせます。旧山陰道と丸山公園の草刈りを 2 回実施しました。木部境～津田峠橋、寺町～鹿田峠、大和ゴム～東町境、丸山公園の 4 地区で作業しました。

第一回目　H29.6.25(日)　　7:00~8:00　参加者：39 名

第二回目　H29.10.22（日）7:00~8:00　参加者：29 名

・豪雨で倒壊した寺坂吉衛門の碑案内板の補修設置補助を行いました。

『地域環境整備事業』

地域の環境美化をすすめ、住民が明るく快適に暮らせる環境を造ります。

・遠田川河口付近の雑草の刈払い、焼却、漂流物の回収除去を行いました。

第一回目　H29.7.3（月）　7:00~9:00　参加者：3 名

H29.7.15（土）16:00~17:00 参加者：4 名

第二回目　H29.8.10(木)　13:00~15:00 参加者：1 名

H29.8.29（火）　9:00~10:00 参加者：3 名

第三回目　H29.12.29（金）13:00~14:00 参加者：1 名

H30.1.7（日）13:00~17:00 参加者：1 名

H30.1.8(月)　13:00~14:00　参加者：1 名

H30.1.9（火）13:00~14:00 参加者：3 名

第四回目　H30.2.2（金）13:00~14:00 参加者：1 名

H30.2.14（火）13:00~14:00 参加者：1 名

・総務省の「地域の暮らしサポート実証事業」に益田市と共に応募しました。内容は、交流機能低下や地域内交通手段の不足が課題である安田地区において、石見津田駅施設や空き家をカフェ、産直市などに利用するとともに、地域内交通を運行することで、地域内外の人々の交流、地域経済循環の促進を目指す。この取り組みが 6 月 17 日に採択（全国で 5 か所）されました。5 月 10 日の市との打合せ協議以来、5 月 22 日検討会、6 月 22 日津田地区説明会、7 月 20 日検討会、7 月

20 日検討会、7 月 26 日検討会、8 月 17 日役員会、8 月 22 日 JR 浜田駅陳情、8 月 30 日総務省ヒアリング、9 月 8 日検討会、9 月 19 日総務省ヒアリング、9 月 28 日業者選定委員会及び役員会、10 月 18 日グループミーティング、10 月 24 日役員会、11 月 6 日検討会、11 月 14 日・11 月 28 日グループミーティング、11 月 20 日役員会、12 月 5 日検討会、12 月 21 日検討会、12 月 27 日総務省ヒアリング、1 月 16 日役員会、1 月 19 日検討会、2 月 8 日最終検討会と協議を重ねてきました。

この間、（1）石見津田駅施設活用事業、（2）人材育成事業、（3）地域内交通実証事業に役割分担し、それぞれ協議、研修、視察など活動してきました。

（1）では、石見津田駅舎をパンカフェに改修、調理設備を整備（1 月 15 日に完成引渡）し、案内看板設置、ホームページ作成、カフェ企画運営実証、駐車場確保、雲南市波多地区・入間地区視察、営業許可取得などを行いました。（2）では、食に関する専門スタッフ（2 名）を育成するためパン作りの研修と実証を 10 月に 4 回、11 月に 4 回、12 月に 2 回、1 月に 6 回、2 月に 3 回行っています。運転手、補助介護者育成は 10 月に 1 回、11 月に 1 回、12 月に 1 回、1 月に 2 回、2 月に 1 回行い、子供スタッフの育成は「つろうて子育て」「オヤジーンズ」の協力で、1 月 27 日に小中学生と親子での JR 列車移動体験と津田駅舎でのたき火カフェを行いました。運営に関するスタッフ育成では、㈱エイトの青木社長に体験談をお聞きし研修しました。会計に関するスタッフ育成では、5 名が竹中税理士事務所による会計ソフト導入、勘定科目設定、伝票入力の方法を 2 回にわたり勉強してきました。（3）では、買物困難者の為の地域内買物支援実証を行うために各自治会長アンケート、組長アンケートで希望者を把握し、介護施設の車とレンタカー（軽バン）を活用し 10 月に 1 回、11 月に 1 回、12 月に 1 回、1 月に 3 回、2 月に 3 回、また 1 月 10 日にはタクシーを利用して買物支援実証を行いました。地域内交通視察では美都町と二川地区の自治会輸送活動事業を視察しました。

②活動の成果及び効果

・H29 年 4 月 24 日地域自治組織安田地域づくり協議会総会の承認を得て、5 月 18 日自治組織として認定され

活動を開始しました。今年度は地域魅力化事業として継続している 3 つの事業に総務省の「地域の暮らしサポート実証事業」が加わりました。3 つの事業は例年通り順調に活動しており、「地域お助け隊事業」では、受注件数が前年を上回る 70 件となり地域の皆さんに大変喜んで頂いています。

「地域の暮らしサポート実証事業」は H30 年 2 月 9 日までの期間で行われ、成果報告書を取りまとめています。パンカフェ開業と移動手段を持たない買物弱者のための交通移動支援の確保は、地域活性化の大きな起爆剤となる事と地域の皆さんの期待も大きくなっています。

4. 残された課題と今後の提案

・パンカフェの運営：製造販売は 2 名の方に委託します。正式オープンは H30.4.1 営業日は毎週木、金、土、日の 10：00～16：00 となっております。事業計画をたて年間売り上げ目標を約 900 万円（一日 300 個売上目標）としています。この目標は決して容易いものではないですが、継続的な納入先確保や広範囲な PR 活動で知名度を上げねばならないと思います。ただ、施設を作った目的は第一に地域のコミュニティとしての活用にありますので、地域の保健室であったり、健康教室であったり、地域の皆さんが気楽に寄って集える場所になるよう活用方法を充分検討する必要があります。

・交通移動支援の確保のためには、安定した交通手段の確保にあります。H30 年 3 月中は介護施設の車の空き時間を利用して善意で運転手付きで車を提供して頂き運行していますが、4 月以後予定が未定となっています。レンタカーを利用したり、タクシーを利用したりしましたが、費用が割高で難しい状況で、かと言って自治組織で車を用意することは予算的に無理な状態です。今後の検討材料となっています。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

地域魅力化応援隊員として 3 年になろうとしています。4 月 24 日の自治組織総会で承認を受けた後、5 月 18 日に自治組織の認定承認通知書を交付されました。魅力化事業 3 事業は順調にスタートしました。特に「地域お助け隊事業」は 3 年目に入り知名度も上がり、広く存在を認識頂けるようになりました。作業受注件数も増加し、なかでもリピーター件数が増加し喜んで頂いています。また、作業実施に当たっては全員が安全第一を心がけ無事故であったことは喜ばしいことです。「やすだ村ええもん市」は 7 月、10 月、12 月と行ってきました。この事業もかなり定着してきたようで、新規の出店者が増え喜んでいます。現在まで出店者には無料で場所を提供し、場合によっては販売も手伝ってきていますが、来年度からは出店者からいくらかの出店料を頂き自治組織の収入源確保を考えていきたいと思っています。「地域の暮らしサポート実証事業」に 5 月から関わってきました。各地区への事業内容の説明から始まり検討会を設置し、5 月 10 日を最初にヒアリング、グループミーティング、役員会、検討会など十数回の会議を行ってきました。その間、パンカフェ担当者のパンづくり研修、運営実証、会計研修、買物支援実証、先進地視察などを行いそれぞれ研修を重ねてきました。それぞれに記録をとり、写真を撮り報告書の作成に一年を通して携わってきた感があります。あっという間の一年でした。

あと一年パンカフェの運営が順調に進むように精一杯協力していく覚悟です。

鎌手地区

地域魅力化応援隊員　氏名　和佐田　昭弘

平成２９年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
   鎌手地区振興センター
2. 配置年月
   平成２７年１１月から
3. 活動の概要

①活動の内容

《地域魅力化事業の延長として》

（１）鳥獣被害防止対策事業（２）旧）山陰道ウオーキング大会事業

《地域自治組織設立準備事業》

・協議会の全体会４回開催・役員会４回開催・ワークショップ２回開催・先進地視察研修会の実施（二条地区、真砂地区）

②活動の成果及び効果

《地域魅力化事業の延長として》

（１）鳥獣被害防止対策事業

昨年に引続き、アライグマやヌートリアの捕獲が出来るよう、鎌手地区単独で特定外来鳥獣捕獲講習会を平成２９年９月５日に開催した。

（参加者：１９名）

近年この事業を継続実施していく中で、着実に免許保有者が増加してきており、捕獲件数は増加傾向にある。また、参加者からは講習会を鎌手公民館で開催したことで、会場が近距離であったことから大変喜ばれた。

（２）旧）山陰道ウオーキング大会事業（地域力醸成チャレンジプロジェクト）

平成２９年１１月５日（日）『近世山陰道を歩こうウオーキング』と称し、山陰道保存会を中心に、自治組織準備会役員の皆さんからも協力を戴き、今年度も歩きながらの景観を楽しみ、史跡探訪も併せて行った。

尚、開催当日の昼食時には、鎌手峠において、『つみれ汁・むすび』等の提供を行い、地区内はもとより益田市内県外からも多くの参加者をいただいた。

然しながら、予定人員７０名を計画し準備を進めてきたが、イベントの開催当日が、あいにくの雨により開催が一週間延期になった事が要因で、全体で５０名と、前年度より１５名程度少ない開催となった。

ただ、鎌手地区以外のお客様も参加者全体の約半数を占めたことで、イベント自体は成功したと考えている。

《地域自治組織設立準備事業》

・全体会一回目 6/15、二回目 9/14、三回目 11/15、四回目 2/13、役員会一回目 6/15、二回目 9/14、三回目 11/15、四回目 2/13、視察研修 10/17、(二条地区・真砂地区)ワークショップ一回目 10/6、二回目 12/13、と、上記のとおり年間を通じて事業計画どおりほぼ順調に取り組みができた。

・特に四回の全体会を通して感じた事は、自分達で自治組織を作っていこうとする意識の低さが見られたが、昨年に引続き２回のワークショップを開催したところ、自分達で地域を何とかせねば、地域の荒廃に繋がっていくといった危機感が少数意見ではあるが出始めてきていることから、今年度は地域自治組織の立上げといった事よりも、既存の団体組織を見直すことから出発点となる、「部会制」を取り入れた組織作りを目標とする事を準備会委員の皆さんで協議した。

当初今年度の事業計画では、自治組織の名称・規約・役割分担等を協議するよう事業計画を組んでいたことから、準備会も事業計画に沿って２回会合を開いたが、ワークショップを２回開催した中で課題が見つかり、形から入った場合必ず失敗するとの講師先生から助言をいただいた。これに伴い、四回目開催の 2/13 時点では、地域の中でやりたいことから始めようといった観点から会合を開いた。

以上の事から、前向きで積極的な意見交換が出来つつあることで、徐々にではあるが、自治組織設立に向けての兆しが見受けられるようになってきたと考えている。

①全体会一回目 6/15 開催時協議内容

・平成２８年度地域魅力化応援活動及び、各事業実績報告
・平成２８年度地域自治組織設立準備事業及び、地域魅力化プロジェクト事業決算報告
・平成２９年度地域自治組織設立準備事業（案）について
・準備会現行規約及び、準備会構成員（案）について
・鎌手の将来像について

②全体会二回目 9/14 開催時協議内容

・鎌手ふるさとおこし推進協議会規約（案）について
・部会名、役割分担、組織図（案）について
・先進地視察について
・ワークショップ開催について
・意見交換

③全体会三回目 11/15 開催時協議内容

・鎌手ふるさとおこし推進協議会規約（案）について

・部会名、役割分担、組織図（案）について

・意見交換
・第２回ワークショップ開催について

④全体会四回目 2/13　開催時協議内容

・各種団体調査報告及び、鎌手地区において今後取組むべき「事業」内容の検討
・平成２９年度地域自治組織準備事業実績報告及び、自治組織準備事業決算見込（1/３１現在）について協議
・MRT 参加のお願いについて　・意見交換

⑤ワークショップ一回目 10/6 開催時の協議内容

・鎌手地区人口データ及び高齢化率シミュレーションについて
・鎌手地区地域づくりに関する新組織図（案）について
・地域の課題について
・課題解決に向けての取り組み
・まとめ

⑥ワークショップ二回目 12/13 開催時の協議内容

・地域の課題について
・課題解決にむけての取組み
・事業仕分けと予算管理について
・まとめ
・その他

4. 残された課題と今後の提案

現在、鎌手地区はステップ２～３の中間点の位置であると考えている。

今年度は、事業計画策定の中で、最終形である（ステップ４）地域自治組織設立目標年度を、平成３０年度と設定した。尚、個人的主観としては、昨年度よりゆっくりではあるが、徐々に計画通りに進んできていると思っている。

然しながら、当鎌手地区では自治組織設立といった事よりも、既存の団体組織は縦割りとなっており、役員自体も殆どが「あて職」構成となっている事から、従来の縦割り組織ではなく、「横の連携」を意識した「部会制」に取組むべく、会合を重ねていく事が大切であると考える。

また、ワークショップ会議の中でも論議されてきたが、組織づくりより人づくりの方が先決である事。更にリーダー的な存在である「人」の発掘調査を早い段階で実施していくことが急務であると考える。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は３年目となったが、平成２９年度は魅力化事業の廃止が決定していたことから、自治組織準備事業単独での事業計画策定及び実施といったことで、四苦八苦しながらも、何とか順調に事業計画を遂行できたと感じている。

但し、魅力化事業が廃止といっても、自治組織準備事業との関連性があることから、「旧山陰道ウオーキング」と、鳥獣被害防止対策事業の一環として、「特定外来種狩猟捕獲講習会」を実施した。

尚、昨年実施した「唐音水仙公園特産品販売事業」については、７月に起きた集中豪雨が原因で、唐音水仙公園に繋がっている林道が４ヵ所も崩れたことで、道路復旧工事が事実上間に合わなかったことから、致し方なくイベントは中止した。

また、旧山陰道ウオーキング大会事業は、イベント開催日が生憎の雨で中止となった事から参加者が５０名と、前年度よりも１５名少ない開催となったが、参加者の約半数が鎌手地区外を占めたことから、イベント自体は成功したと考えている。この取組みは、各名所付近での史跡説明のあと、昼食時には鎌手峠において、『むすびとつみれ汁』を無料提供したことで、参加者からは大変喜ばれ、来年もぜひ開催して欲しいといった声を沢山頂戴したことで賞賛を得た。

併せて今年度も実施した、特定外来種狩猟捕獲講習会は、毎年鎌手地区が継続実施を行っている事業である。これにより、地域においては着実に免許保有者の増加に繋がっており、捕獲件数は増加傾向にある。

以上のことから、鎌手地区は新しい事業の取組みという事よりも、魅力化事業の延長によって、地域の皆さんの活性化に繋がっていけるような事業取組みを念頭に前向きに進んでいくことが、自治組織設立の道筋に繋がっていくと考えている。

種地区

地域魅力化応援隊員　氏名　城市　　仁

平成 29 年度における地域魅力化応援隊員の活動について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
種地区振興センター

2. 配置年月
平成２９年１２月から

3. 活動の概要
① 活動の内容

［ 地域自治組織設立に向けて ］
平成２９年６月の『種むらづくり推進協議会』において、活動計画の基本となる『まちづくりプラン』について検討し地域づくりの一環である高齢者支援を重点目標に取組み、地域自治組織としての今後の方針について協議した。

種むらづくり推進協議会委員会

［ 地域魅力化事業 ］
現在建築中の新棟（サロン）が来年度より運用出来るため、利活用会議を開催し地域住民全体の『小さな拠点』として各種地域づくり、地域魅力化に取り組むこととなった。

新棟（サロン）利活用会議

［ あじさい園の保全整備 ］
『あじさい園』の保全整備を継続的に実施し、交流人口の拡大地域の観光資源として生かしていきたい。

あじさい園

② 活動の成果及び効果

[地域自治組織設立に向けて]

活動計画の基本である『まちづくりプラン』は策定し、平成元年設立の『種むらづくり推進協議会』が地域づくりの取組みを行っているが、引き続き検討協議を行う。

[地域魅力化事業]

地区振興センター棟の耐震化工事のため事業開催が難しかったが、伝統芸能の伝承、ピザ窯の交流農業体験などを継続的に取り組むことで、後継者育成につながると考える。

種相撲甚句踊りを伝承

[あじさい園の保全整備]

猪に荒らされ笹竹に侵食されつつある『あじさい園』の保全整備を行うことにより、来年 27 回を迎える『あじさい園健康ウォーク』も知名度があがり、年々参加者が多くなっている中、さらなる人口交流の拡大が図られる。

あじさい園の保全整備

4. 残された課題と今後の提案

[地域自治組織設立に向けて]

来年度は、地域住民の拠点となりうる新棟（サロン）が完成し運用されるため、地域自治組織設立に向けての気運が高まりつつある中、引き続き『種むらづくり推進協議会』のあり方の検討する必要がある。

建築中の新棟（サロン）

[高齢者支援]

交通弱者、買い物弱者への取組みとして社会福祉法人との連携・協力による交通手段の確保を構築し、サロンの活用イベントへの交流も含めた高齢者支援を図る。

社会福祉法人との協議

[自主防災組織の設立]

全国的にも自然災害が続発しておる中、地区振興センター棟の耐震工事が今年度終了し災害避難場所として十分対応できる建物となったこともあり、自主防災組織を設立し災害に強い地域としたい。

耐震工事終了後の地区振興センター

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

本年度の１２月から地域魅力化応援隊員として種地区の担当となり、地域自治組織も含め詳しくわからない中で今年度は地域自治組織の拠点となりうる新棟（サロン）が着工し、来年度始めに完成・運用されることで地域住民のサロンとしての認識において利活用を考え、地域づくりの拠点としての地域自治組織の必要性を構築する努力をしたい。

まなびや工房キヌヤ出店

北仙道地区

地域魅力化応援隊員　氏名　大久保　佳美

平成 29 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1.　配置部署

北仙道地区振興センター

2.　配置年月

平成２９年４月から

3.　活動の概要

①活動の内容

「自治組織設立に向けて」

平成３０年４月の設立を目標に、地域自治組織設立に向けて前年度のまちづくりプランの骨子を基に、まちづくりプランの作成・部会ごとの活動計画・地域自治組織設立後の規約、を毎月の準備会議で構成員と協議した。「まちづくりプラン」「活動計画」「規約」を冊子にし、地区ごとの住民説明会で周知する計画。

地区住民の方に周知の目的で「自治組織だより」を作成し、毎月の準備会議の内容を載せ全戸配布をする。

フェイスブックを作成し、主に、地区内の行事やギャラリーひれふりの展示物を載せ、当地区の事を地区内外の方へ情報発信を行う。

②活動の成果及び効果

「自治組織設立に向けて」

平成２８年２月よりお世話になり、今年度も会議等のファシリテートをしてもらった檜垣さんの活躍や、準備会議の構成員で地域自治組織を設立している「真砂地区」への視察に行き、視察後からは、準備会議での構成員の意見が活発になった。また３つの部会の名称と、部会長と部会員が決まってからは、部会ごとの活動計画もスムーズに決まり、構成員が参加した「地域経営コース」での現場体験が部会の計画を立てる事への参考になった様子。

APU（立命館アジア太平洋）大学生の北仙道地区訪問があっても地区内に宿泊するところが無い事と、地域自治組織設立後の拠点づくりの参考になればと「古民家再生と田舎ツーリズムを考える」研修に応援隊員が参加した。

地区住民に周知の目的で作成した、自治組織だよりには毎月の会議の日時、構成員以外の住民に会議への参加を促し、毎回ではないが、構成員以外の地区住民が１～２名の参加があり、会議の様子を見たり、意見を頂いた。構成員以外からの参加は少なかったが、毎月の自治組織たよりでの呼びかけに効果があったのではないかと感じている。

フェイスブックの方でも「いいね」の数や「何人が投稿を見ました」と表示され、少しずつではあるが、北仙道の事が地区内外に向けて情報発信ができた。今後も地区での行事予定、実施報告等の情報を発信していく。

自治組織の設立に向けて直接的に関係ないことだったが、APU（立命館アジア太平洋大学）の学生が昨年の６月に北仙道地区を最初に訪問してから、毎月大学生が来てくれ、大学生目線から北仙道地区の課題（ワークショップ）、大学生のプロジェクト活動（ウォーキング）を地区の方とする中で、地区の方は改めて地区の事を考えたり、普段は活動に参加しない方が来てくれたりした。

昨年１２月から始まった中学生のイーボード学習でも、大学生が来る日とイーボード学習の日が重なった時に一緒にウォーキングの企画を考え、運動会や文化祭以外の地区行事に参加する機会ができた。大学生が来てくれた事、イーボード学習を始めた事により地区の小中学生も関われる成果があった。

毎月の自治組織設立準備会議の様子

真砂地区への視察

地区の文化祭・敬老会に銭太鼓で参加

田舎ツーリズム研修参加

地域経営コースの現場体験へ参加

構成員、地区住民がまちづくりラウンドテーブル参加

大学生と地区住民のワークショップ

中学生と大学生が一緒に考えるウォーキング企画

4.　残された課題と今後の提案

地域自治組織設立に向けて動きがある中で、構成員は毎月の会議や他地区での視察に行き、地域自治組織設立というものが見えているが、地区住民のほとんどは地域自治組織を設立してどうなるのかが、見えていないと思うので地区住民へ向けての説明会の後、地区住民へ対象に地域自治組織を設立した地区からの話や、空き家に関する勉強会、フェイスブックの勉強会など地区住民が学べる機会、話を聞ける機会を持てることを提案したい。

運動会や文化祭などの大きな活動の時は子供からの参加があるが、それ以外の地区活動や会議の場には子育て世代の参加は少ないので、どのように巻き込みをしていくかが、課題として残る。

5.　地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度より地域魅力化応援隊員として配属され３ヶ月程は、地区の様子と行事を知る事、公民館に来られる方の顔と名前を覚えること、行事に参加することに専念し、その後は独居高齢者と高齢者夫婦世帯を訪問し、交通機関の利用状況や困っていることが無いか、過去にアンケートは実施していた記録があるが、直接話を聞きに行った。徒歩圏内の場所は自分の足で行ったので、バス停の場所やそこまでの距離を実際に感じることができたが、地域自治組織設立準備会議のファシリテーターやサポート、資料作成の面で地域魅力化応援隊員としての本来の役割はできなかった。

地域魅力化応援隊員として次年度も推薦を頂いたので、ちゃんとしたファシリテーター、前年度では回りきれなかった独居高齢者・高齢者世帯夫婦宅の訪問の続き、地区内の多世代の声を聞きながら、交流しながら業務を遂行していこうと思います。

多くの事を学べた１年間でした。

豊川地区

地域魅力化応援隊員　氏名　岡﨑　友臣

平成 29 年度における地域魅力化応援隊員の活動について、次のとおり報告します。

1.　配置部署

豊川地振興センター

2.　配置年月

平成２６年４月１日から

3.　活動の概要

①活動の内容

Ⅰ．地域自治組織設立に関わる業務

・地域自治組織設立の準備（会議、設立総会・定期総会の開催等）

・まちづくり活動交付金（申請及び提携業務等）

・まちづくり特別補助金（申請及びプレゼン説明等提携業務等）

Ⅱ．まちづくり活動計画

・未来づくり委員会

☆地域交流拠点としての機能整備

☆未来づくりワークショップの開催

☆地域情報の発信

・ひとづくり部会（つろうて子育て推進協議会との連携）

☆とよかわ寺子屋の運営

☆とよかわっしょい!!（中学生活動）の支援

☆地区内外の人との交流

・魅力づくり部会

☆空き家等の活用

☆歴史程遺産の保存

☆未来づくり委員会から提案される新事業の実施

②活動の成果及び効果

Ⅰ．地域自治組織設立に関わる業務

・とよかわの将来を考える会準備会の開催

：第１回：平成２９年５月２４日（水）１９：００～　委員３３名出席

☆委員、役員の選出及び規約の承認

☆行政関係者の参加により「公民館と自治組織の関わり」等について説明

☆設立総会までのスケジュール検討

・とよかわの未来をつくる会（仮）委員会の開催

：第１回：平成２９年７月１３日（水）１９：００～　委員２７名出席

☆組織体制の説明（各委員会、部会の事業内容及び人選等）

☆設立総会及び定期総会の説明（次第、概要、シナリオ、日程調整等）

・とよかわの未来をつくる会 設立総会・定期総会の開催

：平成２９年８月２０日（日）１３：３０～

☆基調講演、設立総会、和太鼓演奏、パネルディスカッション、定期総会

☆住民役２５０名の参加により今後３年間に取組む「まちづくりプラン」「まちづくり活動計画」「規約」及び今年度の「事業計画」「収支予算」が承認され設立の運びとなる。

・豊川の絆でつなぐ神楽の舞の開催

：平成３０年２月４日（日）１０：００～

☆三原董充氏追悼のつどいと題し神楽公演及び偲ぶ会を主催。地区内外より約３００名の参加により石見神楽の振興並びに地域活動への功績を偲ぶ。

・役員会等の開催

☆地域自治組織設立総会の開催にあたり「とよかわ未来をつくる会（仮）役員会を４回開催。

・まちづくり活動交付金（６５０千円）は、各委員会及び各部会の活動支援に充当。

・まちづくり特別補助金（１，０００千円）は、久々茂集会所のエアコン設置等に充当。地域交流拠点の機能整備の財源とした。公民館、小学校のある大谷地区だけでなく久々茂地区にもう一つの拠点が整備されたことで豊川全体での住民同士（他地区、多世代）の積極的な交流に繋がった。

とよかわの未来をつくる会設立総会

久々茂の絆（秋祭り・久々茂集会所）

Ⅱ．まちづくり活動計画

・未来づくり委員会

☆地域交流拠点としての機能整備→久々茂集会所のエアコン設置、小学校交流スペースの壁紙貼りなど機能整備の拡充を図る。

☆未来づくりワークショップの開催→地域包括システムについて豊川地区の取組みについて。

☆地域情報の発信→フェイスブック、UI ターンフェアへの参加。情報誌等の掲載により豊川地区の情報発信を行う。

・ひとづくり部会（つろうて子育て推進協議会との連携）

☆寺子屋の運営→英語教室、バブルサッカー、プログラミング教室、書初め教室等を開催。

☆とよかわっしょい!!（中学生活動）の支援→文化祭への出店、子どもによる地域活動研修の参加により自己啓発を行う。

☆地区内外の人との交流→ひとづくり部会等女性をメインに「色んな人を元気にしていく」企画・運営の研修に参加。

・魅力づくり部会

☆空き家等の活用→空き家対策のための調査や勉強会を開始。自治会ごとの管理とし移住希望者の受け入れにより人口増加に繋げる。

☆歴史的遺産の保存→地区の方々の協力を得ながら倒木処理、除草作業等により景観を損ねることのないように環境整備、維持管理を行う。

小学校交流スペース

とよかわっしょい!!

NPO「てごネットいわみ」研修

大谷城跡除草作業

4. 残された課題と今後の提案

Ⅰ. 地域自治組織設立に関わる業務

昨年８月より「とよかわの未来をつくる会」を設立、新たな推進体制により、地域課題の整理・解決、情報の共有・周知等、新たな地域運営の仕組みづくりに取組んだ。

地域自治組織設立２年目となる来年度は、まちづくり活動計画の拡充を図り、地域のために住民が心を一つにして、夢と希望の持てる活力ある「とよかわのめざす将来像」に向けた「まちづくり」に取組み、「とよかわの未来をつくる会」を一歩ずつでも確立させるとともに魅力あふれるまちづくりをめざしたい。

魅力あるまちづくりをめざすためには、これまでの「ひとづくり」を中心とした地域づくりと併せて、地域を維持していく仕組みの構築をして行かなければと考えている。

Ⅱ. まちづくり活動計画

「とよかわの未来をつくる会」では、地域の将来ビジョンを掲げた「まちづくりプラン」及び課題解決に向けて実施計画を定めた「まちづくり活動計画」を策定し、「ひとづくり」・「魅力づくり」を柱として地区の課題解決に向けた

取組を開始した。

今後も「まちづくりプラン」及び「まちづくり活動計画」に沿った活動内容を「無理せず・楽しく」をスローガンとして取組みたい。

・未来づくり委員会

高齢者世帯の増加、生活面や交通面の対策が急務となっている。少子高齢化や人口減少に伴う担い手不足、各種団体の存続が危ぶまれている。生活の安全安心確保のため、地域の暮らしを支える仕組みの構築が必要と考える。

・ひとづくり部会

地域内外や世代間の交流の機会が少なく、地域の未来を担う次世代の人材が不足している。地域の交流・移住促進のため、地域内外の交流やひとづくりの推進が必要と考える。

・魅力づくり部会

後継者や人材不足により空き家や遊休農地が増加。また高齢者の増加や若者世代の流出により地域資源の維持が難しい。地域の活性化・魅力の創出のため空き家や耕作放棄地などの活用、歴史的遺産の保存等環境整備を図りたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は上記の活動以外の活動として、下記の「地域づくり活動」への支援をさせていただいた。

・地区イベントのサポートとして、地域の現状把握もあり、各種イベントの参加。独自のパソコン教室「パソコンカフェ」（月２回）の開催。

・地域事業のサポートとして、子ども地域活動モデルづくり事業（つろうて子育て推進協議会）事務支援、大正大学地域実習実地への支援。

・公民館事業のサポートとして、しまねのめざす「地域力」醸成チャレンジプロジェクト等社会教育を推進とした地区関連事業等の支援。

・豊川地区の情報発信として、SNS（Facebook）等によりイベントや歴史・文化等の発信。

・視察や各種研修等への参加により、地区内外の人との交流、自己啓発に努める。

次年度も「とよかわの未来をつくる会」をはじめとして、まちづくりプランのテーマである「住みよい豊川・住み続けたい豊川」そして未来へを目標とした「まちづくり計画」のスムーズな進行及び実施できるよう委員会や各部会と連携し事務局としてサポートしていきたい。

豊川地区に配属されて早いもので４年が経った。地域の中で働いているという実感も湧いてきたが、地域自治組織の設立にあたり地域の現況等、今更ながら地区の方々との交流不足を実感。地域に入り込むためにもより一層の努力が必要だと痛感している。

地域魅力化応援隊員として地域自治組織の設立・運営に際し、地区の方々の惜しみない協力に頭が下がる思いである。

真砂地区

地域魅力化応援隊員　氏名　岸本　真樹

平成 29 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
   真砂地区振興センター

2. 配置年月
   平成 27 年 8 月から（3 年目）

3. 活動の概要

① 活動の内容

1）　自治組織支援事業

A）役員会・部会等各種会議支援

役員会（隔月）・各部会（随時）・自主防災団体役員会・その他各種イベント実行委員会等の会議に関わる案内、次第・議事録作成等の準備、及び当日の進行・記録支援を行いました。

B）交流（拠点整備活用）事業

(ア)　*既存行事の整理*

さくら祭、日晩山登山＆ウォーキング、まるごとフェスタ等これまで実行委員会形式で実施していた年間行事を、イベント毎に内容・体制を見直す等、事業整理を行いました。

(イ)　*新規交流イベント　＜きずな部会＞*

きずな部会を中心に、多世代交流を目的とし、夏休み期間中にラジオ体操を３回（7/27・8/6・8/14）実施しました。第二回目の 8 月 6 日（日）は、地区食生活改善推進委員会の協力のもと全員で朝ごはんをいただきながら交流しました。
（述べ参加者 88 名）

(ウ)　*地域活動交流拠点の運営*

昨年度から整備を進めていた交流拠点を、「ひら山のふもとカフェ tele-glue（てれぇぐれぇ）」として 4 月に正式にオープンしました。毎週火・金の午前中に定期的に開店する他、地区内外から企画のサポート、建物管理を行っています。

(エ)　*第二回真砂米品評会実施　＜きらめき部会＞*

真砂まるごとフェスタにて、昨年度に引き続き真砂米の品評会を実施しました。

(オ)　*ウェルカム看板の設置　＜きらめき部会＞*

来訪者向けと地区住民向けに、下波田地区・馬谷地区の２か所にウェルカム看板を設置しました。

C) 人材育成事業 ＜きずな部会＞

次世代の地域の担い手づくりを目的とし、地区の新規・既存イベントに積極的に関わりながら、大人（40～50 代）向けと子ども向けの人材育成事業を展開しています。

今年度は、つろうて子育て協議会・食生活改善推進委員との共催で、高校生が企画した 3 月 21 日開催の「押し寿司イベント」を支援しました。(参加者 55 名)

押し寿司プロジェクトの様子

D) 福祉・防災活動事業

(ア)　*自主防災団体設立*

普段の見守り等の福祉に重きを置いた自主防災団体を 4 月 18 日に設立しました。

５班体制で、各班ごとに防災マップ、要援護者・支援者リスト等を作成しました。

また 10 月 28 日（土）には、岩国防災会館への視察研修を実施しました。（参加者 23 名）

防災会館で消火体験をする参加者

(イ)　*認知症サポーター講座*　＜支え合い部会＞

昨年度３地区で実施したサポーター講座を中学生・教師・保護者を対象に 7 月 3 日に実施しました。（参加者 20 名）

(ウ)　*認知症予防カフェ*　＜支え合い部会＞

認知症に対する知識を楽しく学び深めるため、またサポートする家族の気軽な相談窓口として、交流拠点にて認知症予防カフェを実施しました（隔月１回、参加者 15～6 名/回）

(エ)　*敬老会開催*　＜支え合い部会＞

昨年度に引き続き、地区社協との共催で 10 月 1 日（日）に敬老会を開催しました。（参加者 51 名）

(オ)　*ふれあいバスツアー【委託(暁福祉会)】*

交通弱者対策として、デイサービス送迎車の空き時間を利活用し、市内スーパーまでの買い物支援バスを月 6 回 2 コースで運行。帰りは保育園で園児と給食交流を行っています。

E) 情報発信

・自治組織通信や交流拠点のチラシ（月 1 回発行）

・facebook(真砂+)、公式サイト(http://masagoplus.jp)

2） 地域の魅力化推進事業

保育所給食食材提供

市内 4 保育所と提携し、安心安全な地区生産者さんの野菜を、給食食材として提供しています（毎週月・木出荷）。

今年度からは、昨年度より実証実験中の新種の西洋野菜を市内飲食店へ出荷開始。さらに、トワイライト瑞風（JR 西日本）のランチ用食材も提供を始めました。

また 10 月 2 日にはシェフの店で生産者さんを対象とした研修会を実施しました。（参加者 15 名）

上田シェフと生産者さん

3） その他

A) kintone 活用の実証実験

昨年度から実証実験中のクラウドサービスを、自治組織の運営に引き続き活用しています。今年度は、前述 2）保育所給食食材提供の取組みの事務作業におけるシステム化を図りました。

B) 学生等の地域活動支援事業支援《西部県民センター補助事業》

島根県立大学の学生 3 名を受入れ、地区の高齢者 2 名の聞き書きを実施し冊子にまとめました。

② 活動の成果及び効果

1） 自治組織支援事業

A) 役員会・部会等各種会議支援

地区 3 大イベントを自治組織主体で運営することになったことから、関わる人数が増え、準備や片付け等の負担が軽減されました。

B) 交流（拠点整備活用）事業

新たな拠点が出来たことで、地域に関わる方や活動の幅がひろがりました。またイベント企画をされる方にとっては、得意分野を活かした小さな経済活動と生きがい創出の機会となっています。

C) 人材育成事業

これまで地域に関わることの少なかった 40～50 代（きずな部会委員）の中で、徐々に地域づくりに対する意識醸成が図られており、会

議での発言も増えてきました。

また高校生に関しては、自分たちだけで初めてイベントの企画運営を行うことで、新たな経験や気づき、地域の方との交流の機会となり、また、サポートしたきずな部会委員や参加者にとっても、子ども達の挑戦が未来への希望となりました。

D）福祉・防災活動事業

自主防災団体の設立や、支え合い部会による昨年度からの継続的な活動により、目標とする「地区住民で支え合い、老後も安心して暮らせるまちづくり」が多くの方に認識されつつあります。

2）　地域の魅力化推進事業　保育所給食食材提供

新たな販路として、市内飲食店や豪華列車への食材提供が始まったことにより、生産者さんの意欲がよりいっそう向上しました。新種野菜への挑戦は認知症の予防にもつながり、健康寿命の向上が期待できます。

3）　その他

kintone 活用の実証実験

野菜の集出荷活動の事務作業をシステム化したことにより、外部に委託できるようになり、事務負担が大きく軽減されました。

4. 残された課題と今後の提案

農業の担い手不足

農業の担い手不足、とりわけ草刈について早急な課題解決が望まれるなか、今年度末より農業応援隊（仮）の設立に向け動き出しました。しかしながら、やはり人員不足は否めず、出来る限り個人個人の負担が少なく稼働できるしくみづくりのため、情報収集等のサポートに努めたい思います。

自治組織の第二期に向けて

来年は、設立後に出てきた課題（実態にあった組織づくり、役員・委員構成再考等）の解決のため、代議員、世代別、男女別等の意識調査アンケートの実施を検討しています。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は部会毎の主体性を重んじながらの支援を心掛けました。結果、新たに出てきた課題もありますが、総体的にはよい流れが出来てきたのではと感じています。ただ、年々増える視察対応で本来の業務に支障がでてきているところがあり、有難いことではありますが今後の対応については思案するところです。

来年度は、まだまだ煩雑な事務作業をしっかり整理していくのが目標です。

西益田地区

地域魅力化応援隊員　氏名　栗山　三男

平成 29 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
   西益田地区振興センター

2. 配置年月
   平成２６年１２月から

3. 活動の概要
   ①活動の内容
   - 全自治会より１名ずつまちづくり委員を選出して頂いているが、次年度は西益田地区を７ブロックに分け、各ブロックからのまちづくり委員を増員してもらうことを自治会長会で合意した。
   - まちづくり委員-全体会　　：計　３回
     まちづくり委員-各部会、　　：計各９回
     センター運営委員会・準備会　：計　６回
     上記会議を開催し、それぞれ５ヶ年の活動計画、人事構成、規約案など協議して頂いた。
   - 住民説明会を各自治会にて開催し、地域自治組織設立要旨・まちづくり計画素案を説明し、理解を求めた。
   - 準備会委員と広島県三次市三次地区への先進地視察へ出向いた。
   - つろうて子育て推進事業との共同事業として、「手作りのイルミネーション」設置作業を中学生と地域住民が一緒になって設置、装飾した。

住民説明会に向けた全体会議

地域福祉部会

三次市三次地区視察

住民説明会（大滝・中丸地区）

イルミネーション設置作業

クリスマスイルミネーション

②活動の成果及び効果

- まちづくり委員の中では、西益田のまちづくりに於いて目指すべき理想のビジョンと期待すべき成果を描くことが出来たと思っている。
  また、委員の数を増やすことにより住民意識の底上げや広まりを期待する。
- 視察により、一層の気運の醸成と一体感の共有が諮れたと思っている。
- 中学生を巻き込んだ事業ができたことにより、一つのモデルケースとしての活用が見いだせた。

4. 残された課題と今後の提案

- 西益田地区における地域自治組織の規約に盛り込むべきものとして提示するものの取捨選択が不安定である。直面して初めて提示、改編出来ることもあるだろうが、やはりある程度先を見据えたものを提示出来ればと思う。
- ５ヶ年の活動計画及び大まかなスケジュールは整理できているが、それに沿った単年度事業計画や予算案に対する提示をしっかり行うことが来年度のまちづくり委員に対する主要事案となると思う。
  また、熱い思いをもって集まってくる委員の想いを受け止めながら、計画としてどう纏めていくかが部会運営のポイントだと思っている。
- 市からの補助金･交付金以外の助成金の獲得が組織設立後の課題だと思っている。その為に予め行うべき事業と予算の素案を固めておく必要もあると思っている。
- 地域自治組織設立後の課題は　①収益事業　②法人格取得　この 2 つだと思っているが、提示できる資料を整理できていない。また、タイミングが推し量れていない。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

- センター運営委員会・準備会、まちづくり委員会、各部会、公民館運営委員会、自治会長会、住民説明会　等の資料作成や運営は精力的にこなせ、一定程度の成果も見い出せたと思っている。
- まちづくり委員の人数を増やすことが出来るので、目指すべき理想の形がより具体的になると思っている。
- 根回しや段取りが不得手で、職場の仲間の助言やセンター長の助力を得てもなかなかうまくいかないことが多く個人的な課題だと思っている。

二条地区

地域魅力化応援隊員　氏名　堀 江 宗 仁

平成 29 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

二条地区振興センター（ 公民館 ）

2. 配置年月

平成 29 年　4 月　1 日

3. 活動の概要

① 活動の内容

平成 27 年 6 月 17 日の地域自治組織第 1 号認定より実質的活動を開始した「 二条里づくりの会 」の「 平成 27～31 年度　元気な邑づくりプラン 」(5 カ年計画) 3 年目となった本年は、

○ 次世代を育成する事業
○ 住民をふやす事業
○ 高齢者にやさしい事業
○ 新たな産業を興す事業
○ 安全・安心な暮らし事業
○ 環境をよくする事業
○ 里山の環境を活かす事業

の 7 本柱（ 各種事業計画 ）に沿って本会が活動するに当たり、

○益田市より交付される「 まちづくり活動交付金 」の申請書作成・提出、交付決定後の請求書作成・提出業務、及び「 まちづくり活動特別補助金 」の見積書提出依頼・収集、申請書作成・提出、プレゼンテーション用 PP（ パワーポイント ）作成、プレゼンテーション参加・説明・PP 操作、写真撮影・まとめ、交付決定後の請求書作成・提出業務。

○上記「 交付金 」・「 補助金 」入金後の会計処理業務。

○本会の「 総会 」・「 役員会 」・「 部会 」・「 合同部会 」開催時の案内書作成・送付、資料作成、説明・提案、写真撮影・まとめ業務。

○各種事業実施時の資料作成、随行・参加、写真撮影・まとめ業務。

○各方面からの視察団受け入れ日時等の調整、資料（ 主に PP ）作成、会場準備、随行・参加・PP 操作、資料代等の入金管理、写真撮影・まとめ業務。

○本年度 2 回あった、こちらから出向いての講演活動においての、日時等の調整、資料（ 主に PP ）作成、随行・参加・PP 操作、写真撮影・まとめ業務。

○7 月より開始した、地区内全戸配付用「 便り 」の作成業務。

○各種研修への参加、写真撮影・まとめ、復命書作成・提出業務。

等に従事すると同時に、平成 29 年 5 月 14 日（ 日 ）の「 定期総会 」後から取り掛かった、本会の「 規約改正 」という一大プロジェクトを推進するに当たり、

○「 改正案 」（ 原案、たたき台 ）の作成。

○「 規約改正プロジェクトチーム 」結成後の、会合開催時の案内書作成・送付、

資料作成、会合運営（ 司会進行 ）、写真撮影・まとめ業務。

○会合毎に変化する「 改正案 」の修正業務。

○本会会長宛て、連合自治会長宛て、及び各自治会長宛ての答申書、回答書等の作成・送付業務。

○規約本体に加えて新設する、「 会計処理規則 」・物品の「 貸し出し基準 」・「 物品台帳 」・「 器具・備品貸し出し料金・期間規定 」・「 使用申請書 」・「 使用許可証 」・「 視察および研修等受入れ基準 」・「 資料代等請求および支払基準 」の原案作成・修正業務。

○規約改正に備えての、「 各種会合時の議事録（ 統一様式 ）」・「 役員・運営委員・事務局名簿 」・「 文書登録簿 」・「 公印登録簿 」・「 委任状 」の原案作成・修正業務。

等々、かなり膨大な業務をこなしたように感じている。

谷合農水副大臣の視察（H29.12.23）

規約改正プロジェクトチーム・第３回会合（H30.1.21）

② 活動の成果及び効果

平成29年度より当地区の応援隊員が私に代わったことで、何がしかの“ 新風 ”を吹き込むことが出来たか。これを先ず、検証してみる必要があると思う。

当地区は、平成 24～25 年度の岡﨑隊員が「 各戸アンケートの実施等による、基礎固め 」、平成26年度の安野隊員が「 地域自治組織の設立 」、そして平成27～28 年度の伊藤隊員が「 会計方法の充実 」をそれぞれ担われ、本年度からの私は、何をすれば良かったか。

大きな成果と言えるかどうか定かではない。評価するのは、取りも直さず「 二条地区の住民面々 」であり、後にそれを伺ってみたいものだが、強いて挙げさせて頂くとしたら、「 規約の改正 」をレールに載せることが出来た点と、それに付随する種々の「 基準 」を提案出来たこと、それと事務的な「 体裁（ 社内文書的なもの ）」を確立する端緒に着けたということであろうか。

先ず「 規約の改正 」であるが、これは私が赴任する前の平成28年度、当地区が国の大きな補助金を取りに向かわれた際、規約の不備等で叶わなかったとのことを聞かされ、「 それなら規約を改正しましょうよ！」と声を上げたことから始まっている。故に、たたき台である「 改正案 」を創り、「 基準 」と「 体裁 」はそれから派生し、三位一体で組織の「 柱 」を確立するお手伝いが出来たということでは。そして、いよいよ内部のコンセンサスを確立し、再度大きな目標（ 補助金獲り ）に挑戦しようとする際には、出来得る限りのお手伝いをしてあげたいという思いがある。

効果としては、「 これからはだんだんと、“ お手盛り ”では済まされなくなりますよ！」という「 意識付け 」、そして「 触発 」を、役員・運営委員さん辺りには多少、出来たのかも知れないという点であろうか。

4. 残された課題と今後の提案

残された課題としては、これで来年度５月に予定されている次期「 定期総会 」において、無事「 規約の改正と、それに付随する基準と体裁の承認 」を勝ち取ったとしてその後、その「 運用 」に力を尽くすことだと理解している。それは、私事で恐縮だが来年度もう１年、当地区での応援隊員として推薦を受けた私の「 職務上の努力目標 」であると同時に、先ずイの一番に、本会の役員・運営委員さんは勿論のこと、会員さん全員の「 努力目標 」であると強調したい。

ただ、「 これだけの規約を創って、これから先大丈夫なのか？」といった意見も聞いたが、「 改正案 」の文言中、今までの活動レベルでもその“ 6～7 割 ”は、現実に今までも実施して来ている事なのである。足らない“ 3～4 割 ”は、1 度作ると半永久的に使えるといったものが含まれる訳だから、それ程構える必要はないと言ってあげたい。

それともう１点、前記した「 平成 27～31 年度　元気な邑づくりプラン 」の実行４年目となる来年度は、５年間で仕上げたいと計画した具体的活動目標の“ 仕上がり具合 ”を点検し、そろそろ後の２年間で仕上げるべく“ ラストスパート ”を掛けなければならないのではと考える。

その中でも重要な活動は、以下のようなものが挙げられる。

① 「 竹チップ・パウダー 」の生産、販売ルート探しとブランド化
② 「 サル囲い檻　第２弾 」の建設
③ 「 自主防災組織 」の設立
④ 空き家の減少促進とＩターン者の誘致
⑤ 「 二条米 」のブランド化と本会による一元販売
⑥ 「 二条発カレンダー（ 日めくり ）」の制作と販売
⑦ 「 法人化 」を目指した勉強会の実施
⑧ 新規事業への挑戦（ 新聞配達、福祉有償輸送の検討、安否確認等 ）

今後の提案としては、特に上記 ③・⑤・⑦ を私が強力に進言しており、いずれも重要項目ではあるのだが、当地区での応援隊員 2 年目となることでもあり、1 年目は私も幾分控え目にしていたが、これからは少々強力にプッシュして行きたいと考えている。

広大留学生たおやかプログラムによる
柿もぎ・干し柿作り体験（H29.11.26）

サル囲い檻実証実験現場の合同視察
（H29.8.31）

5.　地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

当地区に赴任して１年目の今年、私にとっても毎日が新鮮で、出勤予定日に二条まで通うのが楽しく、他地区でも有名な「 夜の会議 」（ 19：30 開始、役員会・合同部会等 ）に出るのも全く苦にならなかった。

前任地に比べ、もう地域自治組織が出来上がっている・いないの違いはあれど、会長さん他役員・運営委員さん、そしてセンター長と話した時間は、100 倍どころの話ではない。それだけ、充実した１年が送れたように感じている。

だた、ここで「 反省点 」をひとつ！

今年度は、今までの当地区も経験したことがない「 視察ラッシュ！」の年であったようである。

今までは、受け入れても年に 2～3 回だった視察が、今年度は 9 月以降 12 月までのところで「 8 件 」もあり、こちらから出向いての講演活動も「 2 件 」あり、正直その準備に貴重な時間を割かれることが多く、本会“ 自前の活動 ”をしなかった訳ではないが、新任１年目の私でも今までの活動記録を読めば解るといった具合に、例年に比べてその方が弱かった印象を受けたのである。

言い訳はしたくないが、9～12 月の忙しさは尋常ではなかったように感じる。まあ、本会は決して“ 私１人 ”で回っている訳ではないのでお互い様なのだろうが、もう少し要領良く、進言なりサポートなりが出来ていたらと悔やまれる。

収穫としては、そもそも私が当地区に赴任する時に「 法人化 」という「 夢 」を抱き、事ある毎に役員・運営委員さんに話し、その上で昨年 12 月 22 日（ 金 ）に島根県中山間地域研究センターで開催された「 法人化 」の研修に参加させて頂けたことが大きい。

昨年 3 月末に面接を受けた際、「 法人化 」なる夢を語らせて頂いた。それは、当地区の活動状況であれば、早晩必要になる事ではなかろうかと思われたからである。そしてその夢は、この１年を当地区にて過ごさせて頂いた上で、「 確信 」に変わりつつある。

というのは、やはり僅かなりとも「 収益事業 」を手掛けるようになると、本会のひとつの通帳に「 補助金、交付金から事業収益まで 」一緒に預けておくのは、まだこのレベルの会計だから何とかこなせるが、先の事を考えると、地域自治組織自体を法人化するか、又は法人化した別組織を作った方が、会計上、そして「 納税 」上もはっきりした区切りが付けられて良いのではないかと思う。

ただそれは、今後は今まで以上に腰を据えて「 二条里づくりの会 」の諸活動を行なって行かなければならないという「 縛り 」にもなると考えられる。

いずれ導入されるであろう「 地域マネージャー制 」に移行した場合でも、そのマネージャー1 人では到底出来る事ではなく、当地区の住民、つまりは本会の「 会員各自に課せられる義務 」となって来るであろう事は、容易に想像がつく。

この１年間、特に品川会長さんを始め役員・運営委員さんとお話をして来てよく聞かされた言葉が、「 うちの地区が、益田で１番に地域自治組織を立ち上げたんだ！」というものである。それだけ、「 矜持 」をお持ちなのである。故に、それを私の能力の範囲内で出来得る限り、お支えして差し上げたい。

以　上

美濃地区

地域魅力化応援隊員　氏名　真庭　太樹

平成 29 年度における地域魅力化応援隊員の活動について、次のとおり報告します。

1. 配置部署　美濃地区振興センター
2. 配置年月　平成 26 年 4 月から（4 年目）
3. 活動の概要

①活動の内容

地域自治組織支援準備事業

○　組織体制づくり

５月２７日の地域自治組織「はつらつ美濃の里」設立総会に向けて、部会及び役員会で様々な協議を行いました。

・はつらつ通信を全戸配布し、住民に自治組織設立の周知をしました。
・自治組織住民説明会を２回開催しました。説明会では様々な質問や意見がありました。

設立総会の様子

はつらつ美濃の里：認定式の様子

地域自治組織：はつらつ美濃の里　設立後

・第１回：合同部会を開催、今年度の取組の確認や方向性について再度話し合いました。
・設立後の部会開催は〔計 12 回〕開き、事業計画の実施段階での調整やまちづくり活動特別補助金の詳細な詰め合わせなどを主に行いました。
・全体会及び役員会は当初の 6 月と年度末に行う予定です。
事業報告や調整など主に行いました。

○　現地勉強会及び視察対応について

会長と様々な事を協議し、市が実施する「ラウンドテーブル」「地域づくり人養成講座」に参加するとともに、地域づくり講演会を実施するなど、委員の皆さんと一緒にまちづくりに向けて勉強しました。特に地域づくり講演会での会長さんの話しによって、住民の皆さんの気運が一段と高まったようでした。また、匹見三館の視察対応では、各部会長さんも対応して頂き、自分達の取組内容を再認識し誇りを持って質問に答えられているように見えました。

○　交流（地区内外）事業　及び＜地域づくりの担い手育成＞

美濃地区大運動会：美濃盆行事：美濃の里ふれあい祭りにはつらつ美濃の里も協力しながら取組み、今後も若者が参画しやすいように地域の相互扶助の精神を大切に様々な行事やイベントの継承に取組んで行く予定です。今年度の部会の活動で新たに地域間交流としまして真砂地区と合同でデコパージュ教室を開催したり、ふれあいサロンの交流会は開催事に２００名を越す来客が集り、美濃地区の知名度は確実に上昇していると思います。

テーマは〔自分達の地域が明るく楽しい心豊かな生きがい暮らし〕です。

204 名の来客があった春祭り

真砂てれぇぐれぇで交流教室を開催

○　環境整備事業　＜耕作放棄地の有効利用及び景勝地化を目指して＞

地域の花として定着を目指す「ヒマワリ」は今年度、３５，０００本５　０ａ以上の作付けをしました。また、今年は「耕作放棄地対策及び景観向上事業」で耕作放棄地の解消を少しでも減らすべく、まちづくり活動特別補助金で備品を購入し草刈機講習会をてごすけ部会で開催し、住民で利用しやすい気運づくりを目指します。

次年度は作付け場所を変更予定

購入した機器を利用する住民

○　特産品開発事業　＜美濃特産、ひまわり油の更なる可能性＞

今年、搾油三年目にしてやっと、外部販売できる規模のヒマワリ種子の収穫があり〔220 キロ〕本格的に販売ルートを模索し、商品化に向けて益田市産業支援センター及び中山間研究センターと様々な話し合いの末、化粧品として３品、製作する方向となりました。また、「ひまわり油」として平成３０年１月現在で約１２０本の販売があるなど、「ひまわりの里：美濃」として、ひまわりに関連する〔植付：収穫：イベント：加工〕を地区民みんなで行い、地域の花：ひまわりに関りを持ち、今後、様々な事に発展する可能性を秘めています。

６０ℓは生産可能なヒマワリ油

中西地区でも販売されました

○　自治組織等輸送事業　＜地域内交通、てごすけ号＞

平成２８年秋より、地域内移動手段として様々な検討をされて来た中で、平成２９年３月より、高津梅寿会及び二条共楽苑の方々と協力して、地域自治組織的輸送「てごすけ号」の試験運行が始まりました。

てごすけ部会のアンケートでも要望がありました、「移動問題」ですが、まずは「地域内交通困難」解消の為、診療日〔木曜日〕を基本日に地域内のイベントなどで試験運行を行い、１２月末まで（3～12 月）の利用者は９３名を数え、その内の診療所に通った方は約半数に達しました。その他にも美濃いきいきクラブ及び美濃ふれあいサロンが行っている、グラウンドゴルフ練習（健康づくり）や高齢者友愛茶話会（高齢者生きがいづくり）での利用を診療日などと合わせ技で有効活用しています。

サロンイベントでの利用の様子

美濃地区外出者支援委員会の様子

○　人材育成事業　＜地域継承人材の育成＞

今年は、昨年度行った歴史勉強から“自分達で地域を知ろう”と言う考えに発展し、結い学び部会の事業を中心に〔まち歩き　史跡歩き〕を実施しました。小学校は無くなってしまいましたが、自分達の住んでいる所をもう一度、見直す事によって、住民一体となり自分達の住んでいる場所の魅力を再発見し、自信を持って郷土の事を語ることができるよう気運を高めました。その過程で地域の資料をまとめ、今後、地図を作成し発展して行く予定です。

まち歩きの様子

埋もれかけた清水寺に行く様子

②活動の成果及び効果

平成２６年度から継続している〔小さな拠点事業〕の調査で作成した「美濃の里づくり計画書」で気運が高まり、その延長で、数少ない〔青年世代〕が高齢者の意図に共感し、様々な課題解決に向けて計画し、「美濃地区まちづくりプラン及び活動計画」が策定されました。５月２７日の自治組織設立総会では、土曜日にもかかわらず５３名もの方々に集って頂き、無事、地域自治組織が設立されました。

③残された課題と今後の提案

地域自治組織が立ち上がり、様々な課題解決に向け、少しずつ委員が中心となり事業が展開されつつあります。その中で、次世代のリーダー育成が急務だと思います。また、相互扶助の結びつきが深い地区だからこそ、公民館・地区振興センターと住民の関わり合いが整理されないと、一部に負担が集中する可能性があります。

④地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度、４年目を迎え待望の地域自治組織　「はつらつ美濃の里」　が設立されました。ここに至るまで、様々な苦悩があり、自分自身が未熟なため、地区の皆様にご協力を頂き、この日を無事、迎える事ができました。地域の方々をはじめ、ご協力して頂いた全ての皆様には感謝の気持ちしかありません。

小野地区

地域魅力化応援隊員　氏名　山本　勉

平成 29 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

小野地区振興センター

2. 配置年月

平成２６年７月

3. 活動の概要

(1) 活動の内容

小野地区においては、平成２９年３月に「夢あふれる小野の里」を設立し、４月から各種事業に取組んでいることから、応援隊委員としての活動は、同組織の活動支援について行った。

「夢あふれる小野の里」においては、「海・山の恵みを活かす小野の里」をキャッチフレーズに、理念としての“地域づくりと人づくり”、そして“３つの部の取組み”において事業を実施してきた。

① 地域づくりと人づくり

会においては、人材育成を進めていくために、研修会の参加や先進地視察に取り組むこととしている。このことから、２年前から参加している「人づくり・地域づくりフォーラム in 山口」に、運営委員及び地区振興センターの職員計７名が参加した。

私も、このフォーラムに参加したが、このフォーラムは、山口県を中心に行なっており、年々、参加者も発表者も増えているような気がする。今年は、遠く北海道から来ていただき事例を発表されている。企画も、少しずつ変更しながら開催している。今後も、このフォーラムへ参加して、先進地の事例を参考にしながら、小野地区の取組みが少しずつ進んでいくことを望んでいる。

② 各部の取組み

【防災環境部】

防災環境部においては、「豊かな自然を活かして地域活性化ができるまち」をスローガンに取り組んだ。

■ 安全・安心なまち

小野地区においては、以前、“小野地区安全パトロール隊”を約１２０名で結成し活動をしてきた経過がある。現在、活動が縮小してきており、この活動を再度行うため、以前作製した車両へ貼るステッカーの在庫分を、趣旨に賛同する方へ配付し協力をお願いした。

■　防災

避難場所や避難経路の確認について計画しているが、今年度は、飯浦地区の津波避難マップを作製することとし、地元で話し合い等を行い、作製に取り組んできた。マップの作製のために、市危機管理課に出向き、資料の収集を行なったり、他地区の先進的事例の収集に努めた。

■　定住促進

“若者向けイベントの実施”を掲げていることから、今年度は、まず“若い人たち”の人集めに取り掛かった。夢あふれる小野の里の前身の準備委員会においても“若者部会”を設置し、地区のイベント各種のあり方等について討議してきた経過がある。その際にも、応援隊員として関わり意見を聞いてきた。今回は、少しメンバーを入れ替え、女性を増やして召集した。会の名称を「しゃべり場」とし、今後、定期的に集まることとしている。

今年度は１回集まり、“もぐもぐタイム”的にざっくばらんな会とした。出席者は少なかったが、年齢層が異なれば、こんな意見もが出るのだと、改めて、いろいろな人から意見を聞くことの大事さを感じた集まりであった。

【健康福祉部】

健康福祉部においては、「笑顔あふれる健康まちづくり　～つろうて子育て介護まで～」をスローガンに取り組んだ。

■　デイサービスセンター設置誘致

この取組みについては、地元にある施設を活かしていこうと決定したので、デイサービスセンター「しずかさんの家（小浜）」の管理者と意見交換を行い、地元としての要望や、施設側の現状等を出しあった。また、施設側が行なう運営推進会議に、夢あふれる小野の里から代表者が出席することとした。私は、どちらにも出席し、現状の把握に努めた。

■　ＡＥＤ設置個所の調査・報告

小野地区内に設置してあるＡＥＤについて、場所と設置の状況を調査し、夢あふれる小野の里だよりに掲載して地区の方へお知らせした。場所によっては、２４時間使用できる場所と、逆に、日中しか使用できないところを紹介し、課題の提供にもなった。

■　小野地区振興センター裏　多目的広場整備事業

センター裏の敷地が石ころだらけで駐車スペースとしてしか利用できない状況であったことから、ここに真砂土を敷き整備することにより、スペースの利用を拡充できるとして整備事業を行なった。

整備にあたっては、センターでグラウンドゴルフをプレーする人たちや運営委員が一緒になり、真砂土を敷く作業を行なった。多くの方に関わっていただいたことで、地域自治組織の取組みの一端を地区の人へ周知する機会となった。

グラウンドの整備後は、グラウンドゴルフの利用者にはコースを増設でき

たことや、ボランティアハウスの子ども達は遊ぶエリアが増えたことで、より楽しんでもらっている。

【生涯学習産業部】

生涯学習産業部においては「人が丸くなり　人がとまる　人麻呂の里小野」をスローガンに取り組んだ。

■　小野探訪ウォーキング

今年で３年目となるこのウォーキングは、場所を小浜地区に決め開催した。

毎年コースを変え、地区の内外の人に参加してもらい、小野地区のことをもっと知ってもらおう、ということで始めたウォーキング大会である。今年度は、まちづくり活動特別補助金を利用し、小浜町の衣毘須神社へ参拝する方を、国道１９１号から神社付近まで誘導するための看板を設置したことから、小浜地区をウォーキングすることとした。

当日は、途中から雨が降り出し、あいにくの天気となったが、スタッフを合わせ、約１００名の人が集まった。ボランティアガイドによる説明もあり、少しの時間ではあったが、小野地区のことに触れ、地元のことを知ってもらえるイベントとなった。

■　衣毘須神社周辺整備

この事業では、まちづくり活動特別補助金とまちづくり活動交付金を利用し、衣毘須神社への参拝客の誘導として、国道１９１号から神社付近までの誘導看板を設置した。補助金では、大きい看板を設置し、交付金では小さい看板を業者に作製してもらい、部員と事務局員で設置した。

また、参拝客が車を駐車するスペースがなかったことから、夢あふれる小野の里で駐車場を借り、参拝しやすい環境をつくった。

この他にも、地元自治会へ参拝客の人数やどこから来られているのか等の聞き取りを行い、今後の誘客の参考データの収集も行なった。

■　産直市の実施

産直市の実施について計画に掲げており、実施に向けて、他地区の事例を参考とするために、中西地区で実施している「いき活き市」を部員と事務局員により調査に出向いた。調査した状況については、部の会議においても報告した。今後は、回数や実施方法を検討しながら開催に向けて協議していくこととなる。

（２）　活動の成果及び効果

研修会への参加については、個別に参加を呼びかけ出席してもらった。なかでも、人口拡大課主催の「地域づくり人養成講座」に参加して作成したマイプランが、今後の取り組み次第では、実現可能な状況となっている。

また、若い人たちに集まってもらい意見を言ってもらおうとする「しゃべり場」のメンバー招集を呼びかけ賛同を得たことは、これからの人材育成に少し光が見えた気がする。

4.　残された課題と今後の提案

地域自治組織を設立しての初年度ということで、少しずつの取り掛かりであった。

今年度は、部の会議と役員会議を交互の月に開催し、協議・報告を繰り返す中で進めてきた。しかしながら、部の会議が２ヶ月に１回では、なかなか進まないとの声が、部長・副部長の中から聞こえてきたこともあり、来年度は、少し、役員会議を減らし、部の会議を増やすことを役員会議に提案したところである。できることを、少しずつ取り掛かるというスタンスを続けながら、持続することを考えていく必要がある。

5.　地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度末で、地域魅力化応援隊員となり３年９ヶ月となる。この間、組織の設立を地区の方へ呼びかけ、賛同していただき、なんとか設立までこぎつけた。もうじき、設立して１年を迎える。

設立当初は、なかなか物事が進まないことに、焦燥感を持った頃もあった。しかしながら、会議を重ね、事業に取り組むなかで、少しずつではあるが組織が動き始めたことで、運営委員の多くの方が仕事をもっての取組みであり“細く長く続ける”ことが大事だ、と思えるようになってきた。

ところで、１０年後、この地区が少しでも変わっていることを妄想しながら業務に取り組んできた。年数を重ねるごとに、そのハードルの高さに気づく昨今である。

人口が減少しつつあるこの地区が、パッと変わるような特効薬はないものなのか、と思いつつ地域魅力化応援隊員を続けてきた３年９ヶ月であった。

中西地区

地域魅力化応援隊員　氏名　吉賀　和之

平成２９年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
   中西地区振興センター

2. 配置年月
   平成２７年５月

3. 活動の概要
   ① 活動の内容

- 自治組織設立準備委員会
  計２回の会議を開催し、自治組織設立に向けての意識向上やアンケート実施について協議しました。

- まちづくりアンケート（まとめ）
  自治組織設立に向けた計画策定の参考とするため、昨年度実施したアンケートについて結果をまとめ、検討委員会及び準備委員会にて協議・校正を行いました。地区住民への公表は、来年度に行います。

- なんでもお助け隊
  中西ヘルスポイント制度の一環として、平成２７年から本格的に活動を開始しました。主な作業は草刈ですが、その他に墓掃除や庭の手入れなどの活動を行いました。

- 不法投棄見廻り隊
  現在も絶えない不法投棄への啓発のため重点地域のパトロールを行い、啓発・監視体制の強化を図りました。

- 花いっぱい運動
  「花いっぱい運動」では、美しい環境を守って、心温まる人間関係つくるために各自治会へ花木（かぼく）を配布し、各自治会が管理する花壇や、私道沿線に植え付け作業を行っていただきました。

- イノシシ用箱罠貸し出し
  近年増加しているイノシシへの対策として、昨年度から箱罠（檻）を５基準備し、地区住民へ貸し出しを行いました。

- 動物駆逐用手帳保安講習会
  有害鳥獣駆除対策として、動物駆除用花火使用講習会を開催し、地区住民の方に受講していただきました。

② 活動の成果及び効果

- 自治組織設立準備委員会

　全体的に出席率はよく、委員の関心の高さを感じられます。委員の中には、他地区の動向を注視しておられる方も多くなり、自治組織に対しての意識の向上が伺えます。中西らしい自治組織の設立に向けて、少しずつですが歩み始めています。

- まちづくりアンケート（まとめ）

　昨年度行ったアンケートの結果について、自治組織の計画の指標にするべく、アンケート検討委員会及び準備会にて、協議を行っていただきました。中西地区にはどの様な魅力があるか、またどのような問題があるのかを、委員会全体で共有できたことは、今後の活動の創出につながるのではと考えています。

- なんでもお助け隊

　活動を開始して約４０件の活動を行い、地区の高齢者の方にとって生活支援の一つとなりました。中西ヘルスポイント制度とも連動していることにより、相乗効果も期待できます。今年度は、昨年から引き続き依頼してくださる方もおられ、この活動が徐々にですが浸透しています。

- 不法投棄見廻り隊

　不法投棄の多い個所を黄色のパーカーを着て見廻りすることにより、ゴミを拾うだけでなく、行き交う人の環境美化への意識向上や啓発になっています。また参加される方も意欲があり、パトロール以外でも見廻り活動をされています。このことからも、環境美化への意識の高さがうかがえます。

- 花いっぱい運動

　自治会ごとに花木を植栽していただき、美しいまちづくりにつながりました。松原地区では、昨年から植えていた黄色い彼岸花が綺麗に花を咲かせるなど、毎年の積み重ねによる地域の景観向上につながっています。

● イノシシ用箱罠貸し出し

昨年度からイノシシ対策用の箱罠（檻）の貸し出しを開始し、今年度は５基のうち４基を貸し出しました。貸し出した箱罠でのイノシシの捕獲数は２頭となっており、有害鳥獣の駆除に貢献しています。

● 動物駆逐用手帳保安講習会

動物駆除用花火を使用できる方は地区内で２８名となりました。今年度は、資格を持った方への依頼が増え、サルの出没場所での花火使用例が増えてきました。地区としてサル対策を行う体制が整いつつあります。

4. 残された課題と今後の提案

① 自治組織設立準備委員会

今年度は、昨年度のアンケート調査のまとめもあり、設立に向けて具体的な議論には至りませんでした。

来年度は、アンケート結果を地区住民に公表するとともに、それを踏まえて、地域の皆さんが思う地域の未来像を形にした計画の策定と、組織の設立につなげていければと思います。

② なんでもお助け隊事業

今年度の依頼件数は１０件と、昨年の１７件を下回りました。依頼される方も昨年と同じ方が主となっており、周知が進んでいないのが現状です。

事務局からの発信だけでなく、自治会とも協力しながら周知活動を行っていく必要があります。また来年度は SNS の活用を推進していく予定です。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

応援隊員になって３年となり、地区の皆さんにも顔と名前を憶えていただきました。

自治組織はあくまで地区住民主体で形成していくものでありますが、このことに前向きに考えるようになるには、相当な意識の変化が必要です。地区住民の方が、中西地区の将来像を描き、自治組織の必要性を感じるのにはどうすれば良いか、それが今後の自分の活動の課題だと感じています。

今年度までに９地区が自治組織を立ち上げ活動を行っており、応援隊員として焦る気持ちがありますが、「急いては事をし損ずる」といいます。中西地区の皆さんと自治組織に向けた協議をしっかりと行い、設立に向けて歩んでいければと思います。

東仙道地区

地域魅力化応援隊員　氏名　青戸 美奈子

平成 29 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
   東仙道地区振興センター

2. 配置年月
   平成 28 年 4 月

3. 活動の概要

①活動の内容

・地域自治組織設立に向けての準備委員会会議
・東仙道お助け隊の活動（草刈り・お買い物バスツアー）
・ふるさとカレンダーの作成

②活動の成果及び効果

・地域自治組織設立に向けての準備委員会会議

平成 30 年 1 月設立を目標とし、月に 1 回の会議に加えて、11 月には各地区説明会を行い、それぞれの地区の準備委員が説明を行った。

各地区説明会は、各委員が説明会で自ら説明することにより、当事者意識を深めるとともに、住民の意見を聞き、地域自治組織の在り方について個々が考える良い機会になった。

平成 30 年 3 月現在、設立総会の日時も決まり、規約や部会等について詰めているところであり、いよいよだという高まりが感じられる。

・東仙道お助け隊の活動

今年度は 9 件草刈りの依頼があり、隊員が作業にあたった。

昨年よりも依頼数が多く、住民の認知度が上がったように感じる。

交通部門では､昨年度末に実施したお買い物バスツアーを何とか継続できないかと検討中に、(株)キヌヤの協力を得て、二川・都茂・東仙道合同での、お買い物バスツアーを月に 1 回実施できる運びとなった。

・ふるさとカレンダーの作成

今年度は「昔の東仙道の景色」をテーマに写真を募集し、カレンダーを作成した。

約 60 枚の写真が集まり、カレンダーにする写真を決めた 1 月の準備委員会では委員同士で昔話に花が咲き、和やかに会議を進めることができた。

出来上がったカレンダーは、広報 3 月号と一緒に折り込み、全戸配布した。3 月 4 日の東仙道地区文化祭ではカレンダーと一緒に、全ての応募写真を展示し、大盛況だったとともに、問い合わせやお褒めの言葉をたくさんいただくことができた。

4. 残された課題と今後の提案

・地域自治組織設立に向けての準備委員会会議

説明会で住民の方から多くいただいた意見として、「自治会があるのに、同じような新しい組織を作って意味があるのか」「今でも役をもらうと忙しいのに、ますます個々で負担がふえるのでは」等マイナスのものばかりだった。その後の会議では、どうしたら住民に負担をかけないような組織運営ができるか、希望の持てる設立となるか等を協議するため、平成 30 年 1 月の設立目標を中止とし、平成 30 年 4 月に設立目標を変更した。

設立後は、地域自治組織と公民館、各自治会等との連携が大事となるので、スムーズに意思疎通できるような体制を作っていく必要がある。

・東仙道お助け隊の活動

今年度は新たな隊員を 2 名迎えることができた。昨年度よりも作業の分散化を図ることができたが、依頼数自体が昨年度よりも増えたため、隊員によっては無理をしていただいた部分もあった。来年度はさらに隊員を増やしたい。

5 月～9 月の間、草刈りの依頼が集中し、冬は依頼がなかったが、「粗大ごみをごみステーションまで持って行けない」「雪が邪魔でバス停まで行けない」等の問い合わせがあり、急きょ隊員以外にも対応してもらった。来年度は草刈り以外の依頼について取り決めを行いたい。

・ふるさとカレンダーの作成

昨年度、写真の応募が少なかったこともあり、今年度は新たに写真を撮らなくても応募できるように「昔の東仙道の景色」と、テーマを決めたが、家に昔の写真はあっても家族でのスナップ写真のようなものばかりだという方も多く、景色の写真とすると、そのような趣味を持つ方に限られてくるということが分かった。

カレンダーは好評で、地域自治組織の周知という面でも効果があったので、出来る限り恒例として続けていきたいが、募集という形をとるのか、どのような写真を集めるかや募集方法を工夫していくことが今後の課題である。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は2年目ということもあり、1年間の流れがだいたい分かっていたので、スムーズに進めることができた。

公民館事業との線引きが難しく、一緒に様々な事業を行ってきて感じるのは、自治組織設立後も様々な事業を公民館と切り離し、振り分けてお互いに進めていくというのは大変難しく、連携をとりながら進めていかなければならない、ということである。
まだまだ住民間ではやる気のある者とない者との差を感じるが、できる者で楽しみながら地域を盛り上げていきたい。そうすればその輪はいずれ地域全体に広がるのではないだろうか。
いつまでこの仕事があるのだろうかという不安はあるが、続けられる間は、まず自分が楽しみながら地域の方を巻き込んでいきたい。

都茂地区

地域魅力化応援隊員　氏名　大谷　昭次

平成 29 年度における地域魅力化応援隊員の活動について、次のとおり報告します。

1.　配置部署

都茂地区振興センター

2. 配置年月

平成 29 年 4 月から

3. 活動の概要

① 活動の内容

(1) 都茂地域自治組織設立支援

平成 28 年 2 月に立ち上がった都茂地域自治組織設立準備会で話し合った都茂地区の課題、課題解消のための方策等をまちづくりプランにまとめるための整理を行い、まちづくりプラン(案)をまとめた。

(2) 都茂公民館だより美都の方言紹介コーナーの継続

都茂公民館だより平成 28 年度 5 月号より、美都の方言紹介コーナーを開設し美都の方言を紹介している。

地域にはその土地独自の言葉があり、独自の文化・風習を育んできた。明治時代以降日本政府は中央集権を進めるため学校教育などの中で共通語を押し進めた。現在ではテレビ、ラジオの影響などにより、標準語がほぼ全国に浸透し、方言は忘れ去られようとしている。そうした中、各地では積極的に方言を守る動きが起こっており、保存会も作られている。

地域創生の取り組みが進められている中、美都地域の方言を紹介し、自分たちの住んでいる地域の良さを再認識するとともに、地域を守っていく気持ちを育む。

都茂公民館だより掲載文

美都の方言 ⑫

これ分かりますか?

今月の問題)　「いらく」

【答え】「乾く、乾燥する」

草などがカラカラに乾くこと。

５月は空気が乾燥し刈り草等が良く乾きます。

「いらく」という言葉は全国的にも珍しく、石見地方西部や山口県の一部でしか使われていないということです。

(参)「石見の方言を訪ねて　ふるさとの宝」神本　晃著より

来月の問題は、「いたしい」です。

(平成 29 年 4 月号)

美都の方言 ⑬

これ分かりますか?

今月の問題)　「いたしい」

【答え】「体調が悪い、疲れる」

体調が悪いときに使う言葉で全国で最も多かったのは「えらい」、次いで「しんどい」→「だるい」→「こわい」→「きつい」→「つらい」→その他、の順だそうです。

地域別では「しんどい」は関西と四国の西側で多く、「こわい」は北海道～北関東、九州は「きつい」、中国・香川・東海・甲信越では「えらい」が良く使われるそうです。

(J タウンネットアンケート調査結果より)

美都では「いたしい」を良く耳にします。

来月の問題は、「しわい」です。

(平成 29 年 5 月号)

(3)都茂地区連合自治会輸送活動運営支援

地域自治組織設立後の主要な活動と位置付けている自治会輸送活動の受付、配車調整、資料整理、会議運営等を行った。

都茂地区連合自治会輸送活動は、平成 26 年 3 月に活動を開始し、今年で 4 年が経過するが年々高い利用率となっており、地域の高齢者等の生活支援活動として定着している。

活動取り組み当初は 33 人いたボランティア運転手も高齢化等により、その数が減少しており、運転手の増員が課題となっている。

都茂地区自治会輸送活動利用実績

年	日数	運行日数	運行回数	稼働率	利用人数	1 日当り利用者数
H26	248 日	199 日	549 回	80.2%	606 人	3.0 人
H27	245 日	208 日	666 回	84.9%	765 人	3.7 人
H28	241 日	203 日	663 回	84.2%	743 人	3.7 人
H29	185 日	158 日	491 回	85.4%	573 人	3.6 人（H28.12 月末現在)

② 活動の成果及び効果

昨年度話し合った都茂地区の課題、課題解消のための方策等をまちづくりプランにまとめるための整理を行い、まちづくりプラン(案) を作成した。

今後、準備会役員会および全体会を経て成案として決定していきたい。

4. 残された課題と今後の提案

① まちづくりプラン、活動計画決定後、地域自治組織について住民説明を行い、活動の企画・運営に参加する会員(運営委員)を募り、地域自治組織を設立していきたい。

② 地域自治組織の設立にあたり、新規募集会員と準備会委員の位置づけ、総会議決権所有会員(代議員制とするか、代議員とする場合はその選任方法、準備会委員との違い等)の位置づけ、整理が必要。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は自治組織設立準備の話し合いのとりまとめを行い、まちづくりプラン(案)をまとめることができた。

今後は、この案を成案化し、都茂地域自治組織の設立に取り組んでいきたい。

二川地区

地域魅力化応援隊員　氏名　小原　静伍

平成 29 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1.　配置部署

　二川地区振興センター

2.　配置年月

　平成２６年４月から

3.　活動の概要

①活動の内容

・地域自治組織「ぬくもりの里二川」の事務局

　運営委員会及び役員会の会議設定・調整・資料作成

　地域課題の調査・研究等の支援

・地域魅力化事業の支援

　【住む人が住みやすい地域にしていく】

　【美都温泉と連携した賑わいを創出する】

　【小学校跡施設の有効利用につなげる】

　【地区の特産品を創出する】

　以上４部会で行われる事業の事務局

②活動の成果及び効果

・会議

　総会　１回

　役員会　４回（予定含む）

　運営委員会　７回（予定含む）

　部会　　15 回

　広報　　４回（予定含む）

①	４月９日	設立総会
	会議内容	予算・事業の承認
②	４月２７日	運営委員会
	会議内容	部会長の選出
③	５月９日	役員会
	会議内容	部会員の選出
④	５月２２日	【温泉】部会
	会議内容	事業の調整
⑤	５月３１日	【学校】部会
	会議内容	事業の調整
⑥	６月２日	【住みやすくする】部会
	会議内容	事業の調整
⑦	６月７日	【特産】部会
	会議内容	事業の調整

⑧	６月２９日	運営委員会
	会議内容	
⑨	６月２９日	【特産】部会
	会議内容	事業の調整
⑩	７月２７日	【学校】部会
	会議内容	事業の調整
⑪	８月４日	【特産】部会
	会議内容	事業の調整
⑫	８月２２日	【学校】部会
	会議内容	事業の調整
⑬	９月２７日	【学校】部会
	会議内容	事業の調整
⑭	１０月１２日	【特産】部会
	会議内容	事業の調整
⑮	１０月１３日	【温泉】部会
	会議内容	事業の調整
⑯	１０月２７日	運営委員会
	会議内容	部会ごと事業の報告・ピザ試作
⑰	１２月２０日	役員会
	会議内容	交流拠点づくりに向けた協議
⑱	１月１２日	運営委員会
	会議内容	交流拠点づくりに向けたテーマ選定
⑲	１月２２日	運営委員会（部会別協議）
	会議内容	交流拠点づくりに向けたテーマ別協議
⑳	１月２９日	運営委員会（部会別協議）
	会議内容	交流拠点づくりに向けたテーマ別協議
㉑	２月８日	役員会
	会議内容	テーマ別協議のまとめ作業
㉒	２月２１日	【住みやすくする】部会
	会議内容	来年度事業について
㉓	２月２２日	【温泉】部会
	会議内容	来年度事業について
㉔	２月２６日	【特産】部会
	会議内容	来年度事業について
㉕	３月１日	【学校】部会
	会議内容	来年度事業について
㉖	３月	役員会
	会議内容	総会に向けた調整
㉗	３月	運営委員会
	会議内容	総会に向けた調整

・事業

【住む人が住みやすい地域にしていく】事業

住民同士で助け合い、住みやすくするための生活支援を考えています。

・自治会輸送と買い物バスツアーを組み合わせた買い物対策
・防災訓練

【美都温泉と連携した賑わいを創出する】事業

「地元の人で美都温泉を盛り上げよう！」。

・河川敷の公園で秋のイベント「せせらぎの夕べ」の開催
・毎月第３日曜日に温泉モーニングを開催

【小学校跡施設の有効利用につなげる】事業

地域内外の人が集まって、これからの交流拠点を小学校跡地に集約したい。実現に向けて、地域でできることを考えています。

・体験事業
・周辺美化
・交流拠点づくりに向けた取組（研修など）

【地区の特産品を創出する】事業

高齢者が培ってきた生活の知恵。貴重な地域の記録として次世代につないでいくために、動画に残すことにしました。数年後に懐かしい映像として。また、動画を見て興味を持つ人にも期待しています。

・「おやき作り」「そば打ち」「こんにゃく作り」の記録

【小さな拠点づくりに向けた取組】

◇石窯制作

若い人も楽しめる話題を！ということで、石窯を制作。２層式の窯で連続燃焼ができるので、様々な料理が展開できるはず。地元産の野菜や、間伐材の利用拡大も検討中です。

◇テーマ別協議

「交流拠点の役割」「職員（地域マネージャー）の体制と地域の人のサポート」「来てもらいたい人」「地域の特色を生かせる体験」について、ぬくもりの里二川全体で取組めるようすべての部会で話し合っています。

【体験交流に向けた取組】

◇しまね田舎ツーリズム親子体験

～焼き米とうずめ飯作り～

大きなイベントはたくさんあるけれども、二川を知ってもらい、地域のファンを増やせるようなちょっと濃い交流ができないだろうか…今できることで自分たちでできる一歩を始めてみました。浜田など地域外の人と郷土料理を作り、のんびりとした一日を過ごしました。

季節限定、四季折々の二川を感じてもらえる体験をこれからも考えていきます。

4. 残された課題と今後の提案

小さな拠点づくり・体験事業・来年度の事業…地域自治組織の立上げにより皆さんの意見が出やすくなってアイデアが溢れそうな状況。目標を会員で共有して、一歩一歩取り組めることから着実に消化することがこれからの目標。

委員以外の関わりが増えるような声掛けも必要。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

まだ軌道に乗らない事業もあるが、継続すること、更新すること、辞めることなど、忌憚のない意見が出るような会議の雰囲気を作っていきたい。

匹見上地区

地域魅力化応援隊員　氏名　大畑　馨

平成 29 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1.　配置部署

匹見上地区振興センター

2.　配置年月

平成 26 年 5 月

3.　活動の概要

①活動の内容及び効果

Ⅰ、地域自治組織設立準備事業
Ⅱ、各グループの協議・検討
Ⅲ、視察研修

① 活動の内容及び効果

Ⅰの地域自治組織設立準備事業については、平成２５年に準備委員会が立ちあがり４年が経過し、４年の間に住民説明、意見交換を実施し地区の課題の洗い出し、住民と情報共有などをしながら、準備委員会で協議・検討を行い、今年度は、その結果、設立の目途が経つまでになりました。

その中で、今年度は当地区の重要課題に決まった「魅力発信」「支援」「環境保全」の３つのグループに分かれてグループ協議を主に行いました。グループ毎にテーマを決め、まちづくりプランに必要な活動計画を協議してきました。（詳しいグループ協議内容はⅡで説明）今年度は、その協議報告として中間報告を計画し、住民・地域団体参加のもと方向性の周知も含めた報告会をする事ができました。

またグループ協議では、沢山の意見やアイディアが出される様になり、委員の委員会出席率も良くなり、委員の皆さんも自分達の地区に変化をもたらしたいという意識改革ができた年度にもなりました。

更には市長と語り合う会や議会報告会に出席し、自治組織について直接質問し回答をもらうことができ、今後の設立に向け大変参考になりました。

今後は、最終段階の協議を進めながら設立に向け、委員での協議・検討を行い、住民がより良く住め、魅力ある地区になる様な「まちづくりプラン」を作成していきたいと考えています。

※委員会（全体会）

※中間報告会

Ⅱのグループ協議・検討では各グループとも「まちづくりプラン」の活動計画に対しての協議・検討を行いました。「魅力発信」グループについては、当地区の地域資源を活用しての計画が中心となり、協議を進めてきました。内容としては、山と川の活用を考え、山の活用ではモデル林の整備やきのこ狩りなどのイベントの開催を計画に入れ、川については、当地区内の西中国国定公園である裏匹見峡などをモデル的に選定し、ヤマメや蛍を活用していくことを協議・検討してきました。

「支援」グループについては、高齢者・独居世帯、交通、買い物、若者に視点をあてながら活動計画を協議・検討しました。内容については緊急災害時の見守りや住民集いの場所の提供、買い物については買物ツアーだけでなく、景観ツアーなども実施したいとのアイディアを考え計画にいれました。また、地区内の若者世代が主役になれる場所づくりも計画の１つとなりました。「支援」グループは定期的の委員会とは別に支援グループだけでの協議を実施しました。

「環境保全」グループについては、地区内の深刻な課題である「鳥獣対策」「休耕田問題」「環境美化」について活動計画の協議・検討を行ってきました。鳥獣対策では、現在実施している煙火講習会の継続実施をはじめ、猟友会や自治会と連携しながら鳥獣対策を行い、鳥獣被害の軽減を目指す。休耕田問題では農業委員会と連携しながら、休耕田の減少、担い手育成などを計画の１つとして考えました。そうした中で農業委員、猟友会を交え、情報共有を図り、「自治組織」「地域団体」「行政」それぞれが、できる事の協議を重ねながら活動計画を検討しています。

※グループ協議

Ⅲの視察研修については、住民との意見交換の際に、独居・高齢者世帯が多い地区において、緊急時や災害が不安という意見がどの地区においても寄せられ、当地区には自主防災組織が存在しない事や、活動計画の具体的な内容を考える中で今年度は「防災」についての視察研修を山口県岩国市の防災センターでの視察を行いました。

防災センターでは、火災、地震などの擬似体験をはじめ、事前に災害に対して自ら出来る対策方法をセンター職員の話を聞くことで学ぶことができ、今後の活動計画の参考にすることができました。

更には役員は松江まで行き、他地区の「防災」についての取り組みを聞き、当地区に参考になるものを勉強し、協議会に提示し、委員の皆さんに情報を提供していこうと考えています。

昨年度までは地域自治組織の先進地への視察を行っていましたが、今年度は設立後の活動を見据えた視察になり、少し様子を変えた研修でしたが、委員も「防災」のことを改めて考えられる参考になる視察になりました。今後はこの視察研修を通しての「防災」の大切さを住民に伝えることが重要になると思います。

※視察研修

※松江での研修

４、残された課題と今後の提案

地域自治組織設立に向け４年が経ち、当初に比べると地区住民の「地域自治組織」の仕組みは理解しつつありますが、まだまだ住民周知が不十分なのが確かです。その中での周知方法として、月１回発行の公民館便りと一緒に進捗状況を添付していますが、住民の反応は薄いのが現状です。しかしながら住民にとって将来的に大切な組織になってきますので、住民一人ひとりに興味を持ってもらい周知し、活動に参加してもらうことが今後の一番の課題になると思います。

また、設立の目途が見えてきましたが、先ほども述べた様に、設立に向け、地域住民に理解をしてもらい、活動を行う上で、地域団体との連携が最重要になってくると思います。柱の一つである「環境保全」グループは準備段階から農業委員や猟友会との協議の場を持ち、設立後も連携をとりながら活動を行える状況をつくりました。この様に関係団体や住民との話し合いの場をもち、連携をとりながら設立後の活動をスムーズに実施できる環境を作りたいと思います。

５、地域魅力化応援隊員の活動をふりかえって

応援隊員に配属され４年目を終わろうとしています。配属された当時は「地域自治組織」について、分からない部分が多く不安でしたが、センター長や委員の皆さんの協力のおかげで今年度、設立に向けて前進する事ができました。

その中で今年度は、テーマ毎に、グループ協議を行ってきました。昨年と変わった事はグループ内で進行役を決めてもらい協議を進めてもらいました。これは、少しでも事務局主導から準備委員主導になってくれればと思い、その結果、沢山の意見が出る様になりました。少しでも自主性を持ち、自分達で協議を進める形をとれたのは良かったと思います。

また、その検討の纏めを事務局と委員が一緒に行う、良い流れをつくる事ができることができ、今年度に「まちづくりプラン」の素案を作成することができました。

配属され４年が経ち、まだまだ勉強不足で、委員やセンター長に迷惑を掛けますが、来年度は設立に向け、大切な年度になると思います。

匹見下地区

地域魅力化応援隊員　氏名　小島　雄二

平成 29 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

１．配属部署

匹見下地区振興センター

２．配属年月日

平成 27 年 10 月から

３．活動の概要

（１）活動の内容

①第 2 回「匹見下いいの里づくり協議会」総会（平成 29 年 4 月 24 日）

山崎会長挨拶

総会議事

（２）各委員会活動

①地域活性化委員会

ア）第 3 回Ｕ・Ｉターン交流会「春を食う会」・・平成 29 年 4 月（参加者 50 名）

イ）川崎市サマーキャンプ・・・平成 29 年 7 月（川崎市の都合で中止）

ウ）のぼり「おかえりなさい」設置・・・ゴールデンウイーク・盆・正月

エ）匹見下空き家調査・・・平成 29 年 7 月～9 月

空き家カルテ作成・・・平成 29 年 10 月～11 月

空き家アンケート実施・・・平成 29 年 12 月～平成 30 年 2 月

オ）匹見下ふるさと祭り・・・平成 29 年 11 月

カ）平成 30 年川遊び実施計画・・・平成 30 年 2 月～

Ｕ・Ｉターン交流会

匹見下ふるさと祭り

②健康福祉委員会

ア）いきいき健康 100 歳体操・・・平成 29 年 7 月～9 月（13 回・参加者 230 名）

イ）グラウンド・ゴルフ・・・平成 29 年 7 月～10 月（6 回・参加者約 150 名）

ウ）ＡＥＤ・応急救護講習・・・平成 29 年 9 月

エ）匹見下地区運動会・・・平成 29 年 9 月（台風の為中止）

オ）4 館合同匹見峡ｳｵｰｷﾝｸﾞ・・・平成 29 年 10 月（台風の為中止）

カ）健康づくり講演会・・・平成 29 年 11 月

キ）ささえ愛体制・・・平成 29 年 11 月～

いきいき健康 100 歳体操

AED・応急救護講習

③生活環境委員会

ア）石谷地区買い物不便調査・・・平成 28 年 4 月

イ）広瀬地区鳥獣被害集落点検報告会・・・平成 29 年 7 月

ウ）石見交通「バスの日」・・・平成 29 年 9 月

エ）地区別連絡網・救護体制・・・平成 29 年 10 月～

オ）能登地区鳥獣被害集落点検・報告会・・・平成 29 年 10 月・30 年 3 月

カ）匹見下防火訓練・・・平成 29 年 10 月

キ）交通利用案内・・・平成 29 年 10 月～

ク）日用品販売コーナー・・・平成 30 年 1 月～

ケ）鳥獣駆除花火講習会・・・平成 30 年 3 月

鳥獣被害集落点検

防火訓練

④その他の活動

ア）「いいの里づくり協議会」だより作成（6 号～8 号）

イ）匹見峡温泉活性化プロジェクト・・・月 1 回会合（通算 38 回）

ウ）とちの実交流会・・・平成 29 年 12 月

２）活動の成果及び効果

①自治組織「匹見下地区いいの里づくり協議会」が 2 年目を迎え、地区民の自治組織への関心や認識が深まり、様々な具体的な活動に多くの地区民の参加・協力が得られるようになった。その過程で、成果が徐々に感じられる活動もあったが、後継者不足が急速に進んでおり、新たな課題も顕在化している。

②自治組織の活動拠点「多目的集会施設　いいの里」は、地区内外の人々のサロン活動・祭り・講演会などの交流事業や災害時の避難場所など、地区住民の重要な活動施設として度々活用された。

③自治組織の「地域活性化委員会」「健康福祉員会」「生活環境委員会」の 3 委員会は、2 年度目の事業計画に基づき、それぞれの課題や事業への取り組を具体的に実施してきた。

ア）「匹見下ふるさと祭り」や「とちの実交流会」などの交流事業を通じ、匹見下地区をアピールすることができた。

イ）「Ｕ・Ｉターン交流会」を開催することにより、Ｕ・Ｉターンした人達の匹見下への様々な思い・要望を直に話すことができた。さらに、「春を食う会」を行い、Ｕ・Ｉターン者と地区民との交流を深めることができた。

ウ）健康福祉・生活環境の合同委員会で実施した「ささえ愛見守り体制づくり」は、地区の住民の個々の抱える問題を地区民で共有し、互いに支え合う必要性を認識し、地区別の活動体制を作り、推進することとなった。

エ）「いきいき健康 100 歳体操」や「健康づくり講演会」を通じ、自分の健康は自分で管理ことの大切さ知り、互いに楽しみながら続ける広がりとなった。

オ）交通不便対策は、匹見下地区の大きな課題だが、「交通機関利用案内」を作成し、公共交通の有効活用に取り組むこととなった。

カ）「匹見川魅力発信事業」のため、まちづくり特別補助金を申請し、川遊びのための救命胴衣などを整備することができ、来年度に向け、地区外に向け匹見下地区をアピールするより充実した活動を実施できるようになった。

キ）「空き家調査」及び所有者への「アンケート調査」を行い、空家バンクへの登録など、地区の活性化に向け、空き家の有効活用策を検討することとなった。

ク）「鳥獣被害集落点検や報告会」を行い、更にパソコンで地図化することにより、地区民間での情報の共有と具体的な対策が行うことができるようになった。

ケ）買い物不便対策として「日用品販売コーナー」設け、ゴミ袋やダシの素を取り扱うこととなった。

４．残された課題と今後の提案

１）残された課題

①自治組織の地区民への浸透と、より参加しやすいイベントや事業内容へ

②後継者不足に伴い、事業内容の仕訳と絞り込みの必要性
③自治組織の自立促進を目指した収益事業の育成

2）今後の提案

①自治組織の地区民への浸透と、より参加しやすいイベントや事業内容へ

・地区民の自治組織への理解と参加意識は比較的高いと感じるが、広報やさまざまなイベントや事業を通して、なお一層積極的に住民意識を高める必要がある。

・交通手段を確保し、より多くの地区民が気軽に参加できる内容に

②後継者不足に伴い、事業内容の仕訳と絞り込みの必要性のために

・過疎高齢化の進んでいる匹見下地区にあって、多くの地区民が様々な活動を重複して担っている。地区民の負担軽減と効率化のため、事業内容の見直しと並行し、各種組織の統廃合の検討が必要。

・自治組織の事業として、やりたい事とできる事との区別をつけ、実行すべきことの優先順位をつける。匹見下の人口や構成等から考え、新規事業は3件くらいが妥当ではないか。

・また、歴史的にも地理的にも密接な関係のある道川地区、匹見上地区、匹見下地区の3地区は、将来的には統合し、協力して課題対応したほうが良いのではないか。

③自治組織の自立促進を目指した収益事業の育成のために

・商業施設のない匹見下地区は、交通不便対策と同時に買い物不便対策に取り組む必要がある。地区センター内に日用品の販売コーナーを設けることを開始し、徐々に取り扱い品目を増やしており、収益事業の１つになりうる。

・また、地域の特産品の販売を目指し、生きがいづくり、家計の収入増を計る

５．地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

（１）匹見下地区に配属後、２年余り経過した。この間、地域自治組織「匹見下いいの里づくり協議会」の活動も2期目を迎え、匹見下多目的集会施設「いいの里」を活動の拠点として、匹見下地区のまちづくりの具体的な活動を行う年となった。

（２）私自身、多くの地区の皆様の知遇を得て、様々な地区の活動に参加することができるようになった。あらゆる活動への住民の参加意識が高く、その拠り所となる地区振興センターや公民館の持つ役割の重要性が、実感できるようになった。また、この地区の９８％を占める森林や清らかな河川などの自然が、様々な恵みをこの地にもたらすとともに、風水害や雪害、鳥獣被害など、住民の生活に圧倒的な影響力を持っていることも実感した。多くの活動に参加すればするほど、匹見下地区の課題が明らかになり、過疎高齢化の進展と相まって、対策が急務となっているのを感じる。

（３）更にもう１年この地区で活動することになったが、匹見下地区の現状は、益田市の未来であり、日本の未来でもあるとも考えられる。匹見下地区の住民の関係性の深さや、自然の恩恵を常に実感できる地区性は、自治組織の活動をするうえで大切な財産であり、地区の皆様とともに明日の匹見下地区をつくるため、大いに活用して自治組織３年目に臨みたい。

道川地区

地域魅力化応援隊員　氏名　高田　純子

平成 29 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1.　配置部署

道川地区振興センター

2.　配置年月

平成２６年４月

3.　活動の概要

①活動の内容

■地域自治組織活動支援

☆組織運営の支援

・組織を構成する各種団体及び地域住民の連絡、調整、会議、運営の支援、研修会、講演会等の調整、実施。関係機関との連絡、調整等。

☆まちづくり計画及び活動計画に沿う活動の支援

・賑わいづくり　・ひとづくり　・暮らしの安心づくり

☆旧道川小学校跡地利用に伴う庶務

・跡地利用に関する協議、教育委員会他関係者連絡、調整

☆県「小さな拠点づくり」事業

・現場支援スタッフとの地区調査、集落点検、・・・現状と課題の共有

②活動の成果及び効果

■各種会議、研修会の実施

☆役員会、全体会議　企画委員会　　☆各種地域活動企画会議

☆地域内交流事業　実行委員会

盆踊り大会実行委員会

地区民運動会実行委員会

親睦交流会実行委員会

■《賑わいづくり》関係人口の拡大

☆　美濃地屋敷、産直市「出合の里」を活動拠点とし、加工販売、イベント、体験活動を実施。地元石見神楽と生産農家、加工品や手打ちそばなど、食を主体に、地域の魅力にふれてもらう機会とした。美濃地屋敷の春祭りでは、和太鼓演奏、奥匹見峡の散策を合わせ実施し、県内外から２００人近い来場者があった、出合いの里の春祭り、秋の収穫祭では、それぞれ４００人以上の来客があった。また、出合いの里みちかわの空スペースを活用し、交流サロンを開設し、秘峡カレー（サバ缶カレー）を週１回、20 食から 30 食提供した。特別補助事業「世界へ届け！道川神楽の魅力！」～小さな山里からの挑戦～では、オリンピックを視野に入れ、今年度中に１回は外国の方に英語神楽を披露することを目標にし、実施した。これらの活動は新聞、テレビ等メディアでも多く取り上げていただき、地域の魅力を発信できた。

美濃地屋敷：春、秋　年２回のイベント、菊花展実施、精進料理の提供等

出合の里：春、秋年２回イベント、交流サロン「より道」開設秘境カレーの提供

田舎体験：修学旅行生受入　そば打ち体験、英語の口上による神楽上演

☆ 情報発信

ホームページ、フェイスブック等の随時更新を行った。「ＦＢ見てきました。」と、声をかけていただくこともあり、少しずつではあるが、情報発信の効果が出ているようだ。神楽や地域の様子を動画でも紹介しており、毎日視聴されており、地域を知ってもらうきっかけのひとつになっている。　http://michikawa.info

■《ひとづくり》地域の繋がりを強める活動、人材育成

☆講演会の実施

H29.11　　講師：ときめきの里　大庭　完　会長

演題：「地域の可能性を信じて

～とにかく　やってみようよ～」

☆研修会の実施

H30.2　　場所：島根県民会館

道川「防災でつなぐ地域の絆」成果発表及び他地区の取り組みから多様な住民のつながり方について学んだ。

☆地域内交流活動（世代間交流）

H29.11　親睦交流会　地域住民が集まり、多世代が同じテーマで学びあった。
今年度の地域防災の取り組みを報告し、普段からの防災意識を高めあった。

8/10 夏の寺子屋

8/13　盆踊り

9/24 地区民運動会

■《暮らしの安心づくり》高齢者支援、助けあいのネットワークの構築

☆見守りや声がけ、買い物バスツァー、配食サービス等、高齢者の平常時の暮らしを支援。冬場、県外の縁者のもとへ行かれる方が増えてきた。

買い物バスツァー

配食サービス・声がけ

高齢者の話を聞く場

☆　非常時の災害に備え、企画委員を３つの班に分け、企画、実践

・緊急情報キット作成班…キットの作成、登録台帳の確認、キットの配布
（登録台帳の配布、回収は、各自治会長、民生委員が行った）

・まち歩きマップ作成班…危険、災害箇所、消火の水取り場等のマップ作成

（消防団、各自治会長、過去の災害経験者を中心に聞き取り）

・避難訓練、避難所体験…「まずは、やってみる！」から地域に必要な防災、個々の普段からの備えについて、考え、今後につながる活動とした。
参加者の振り返りに重点をおき、今後につながる貴重な体験となった。
（消防団、各自治会長、全住民に避難（訓練）を呼びかける放送を実施）

情報キット説明、配布

まち歩きマップ　聞き取り

避難訓練の際振り返り

4　残された課題と今後の提案

□小学校が廃校となり初年度の今年、これまで、学校や子供たちとともに行って来た、地区民交流事業（運動会、親睦交流会、三世代交流会）のあり方について、見直しをおこない、事業を実施した。三世代交流会は、他の目的を同じとする事業と統合し、実質廃止とした。少子高齢化、人口減少の影響は大きく、準備等の負担感はぬぐえない。地域行事を見直し、統合、削減、内容の検討も必要であると考える。

□昨年度、非常時の際の要支援者の避難、普段からの防災活動について、企画委員を中心に検討してきた。今年度は、実践に入り、3つの班で役割分担し、情報を共有しながら、進めてきた。それぞれが、協力を求める団体を巻き込み、他の行事も活用しながら、まずはやってみる中での様々な立場での気づきを集めた。来年度は、この気づきをもとに、自身の防災意識の向上と暮らしの中で活かされる地域全体の防災活動に展開していく。

□高齢化が進み、これまで出来ていたことが、だんだんできなくなって来たことを活動団体の方々も実感されており、先行きを心配されるようになった。人手不足は深刻な問題となっている。定住に向けた議論をする中で真っ先に挙げられるのが、「住まい」の課題である。教員住宅のお試し住宅化等、小学校の校舎の小規模改築、地域で朽ちていく市所有建物の有効活用を図るべきと考える。地域の試験的使用を許可していただけるよう、地域に寄り添った見解を切に願う。

5．地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度、実践にはいった防災活動は公民館事業の支援を受け、地域の行事と組み合わせながら、住民の方が参加しやすい形で進めることができました。これからの担い手を中心に構成されている企画委員が実行部隊のリーダーとなり、地域の諸団体を巻き込み、活動を展開していきました。

自治組織を設立して二年目。それぞれの立場で話し合うべきことがしっかり話し合われ、実践に至ったことで、少しずつ、運営の形が整ってきたように思われます。

人手不足が深刻ではあるけれど、カレー屋さんがオープンしたり、英語で神楽を上演したりと新しい取り組みも生まれています。楽しい事や夢が語れる地域であり続けたいなと思う一年でした。

○地域魅力化応援隊員事業実施要綱

平成２６年４月１日

益田市告示第７７号

改正　平成２７年６月１２日告示第１５０号

平成２９年３月１３日告示第４７号

（趣旨）

第１条　この要綱は、地区振興センター等を中心とした区域（以下「地区」という。）において、人口減少、少子高齢化等により集落や自治会単位では地域運営が困難となりつつある状況を踏まえ、地域運営を主体的に行う新たなコミュニティの創設及び地域の魅力の創造（以下これらを「地域魅力化」という。）に向けて、地区における当該コミュニティの設立を支援し、並びに地域住民が抱える地域課題の整理及び情報の共有化による住民自治機能の充実や機能強化を支援するため市が設置する地域魅力化応援隊員（以下「応援隊員」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（配置）

第２条　市長は、地域魅力化に向けて次の各号のいずれかに該当する団体の存する地区の地区振興センターに応援隊員を配置することができる。

(1)　益田市地域自治組織設立支援事業補助金交付要綱（平成２９年益田市告示第４６号）の規定による補助金の交付対象となる団体

(2)　益田市地域自治組織の設立認定に関する要綱（平成２７年益田市告示第１１号）第５条第２項の規定による設立認定を受けた地域自治組織（以下「認定地域自治組織」という。）

（任命）

第３条　市長は、公募又は前条各号に規定する団体からの推薦により、地域の実情に精通した者、地域コミュニティの構築に意欲をもって取り組む者又は地域の活性化の推進に関して知見を有する者の中から、応援隊員を任命する。

（身分）

第４条　応援隊員の身分は、地方自治法（昭和２２年法律第６７号）第１７２条第３項ただし書及び地方公務員法（昭和２５年法律第２６１号）第３条第３項第３号に規定する非常勤の嘱託員とする。

（任期）

第５条　応援隊員の任期は、１年以内とし、再任用を妨げない。

（所掌事務）

第６条　応援隊員は、配置される地区における第２条第１項各号に掲げる事業を実施する団体又は認定地域自治組織の活動の支援に関する事務を所掌する。

（報告）

第７条　市長は、応援隊員に対し、別に定めるところにより月ごとの業務の内容について報告を求めるものとする。

（その他）

第８条　この要綱に定めるもののほか必要な事項は、市長が別に定める。

附　則

（施行期日）

１　この告示は、平成２６年４月１日から施行する。

（有効期限）

２　この告示は、平成３２年３月３１日限り、その効力を失う。

附　則（平成２７年６月１２日告示第１５０号）

この告示は、平成２７年６月１２日から施行する。

附　則（平成２９年３月１３日告示第４７号）

この告示は、平成２９年４月１日から施行する。ただし、附則第２項の改正規定は、平成２９年３月１３日から施行する。

発　行　平成３０年３月
発行元　益田市政策企画局人口拡大課
〒６９８－８６５０　島根県益田市常盤町１番１号
TEL　０８５６－３１－０６００
FAX　０８５６－２３－７７０８
E-Mail：jinkokakudai@city.masuda.lg.jp